

令和元年度 アーツ前橋事業評価調書(1)

基本事項	事業名	表現の生態系 世界との関係をつくりかえる						
	会期	2019/10/14(10/12)ー2020/1/13 /69			開館日数	67 日間		
	会場(ギャラリー)	1Fギャラリー、地下ギャラリー(プロムナード、G2、ホワイエ)			実施方式	01自主企画・単独方式		
	観覧料	一般	600 円		出品点数	101点		
		割引	400 円					
	担当者	学芸:今井朋、吉田絵美 事務:高山あずさ、小屋綾子						
	目的(一覧表)	2016年度から「表現の森」を通じて社会課題に対する美術館の役割を考察してきた。このような活動を美術館が行う背景を歴史的、美術的視点から改めて問い直す。精神医療や共同体のようなテーマを扱い、現代におけるアートの役割を再考する。文化人類学や社会学の専門家と協働し、美術以外の分野の人々にも関心を持ってもらえるような企画展を目指す。						
	キーワード	ジェンダー、ケア、共同体、市民運動、マイノリティ、手仕事、精神、信仰、自然、周縁性、ローカル、風土						
	他団体との連携 (共催・協力等)	・アートによる対話を考える実行委員会						
		・京都精華大学						
・LGBT支援団体 ハレルワ								
・上毛電気鉄道								
参加作家	白川昌生	山田創平	尾花賢一+石倉敏明	ブブド・ラ・マドレーヌ				
	地主麻衣子	中村裕太	イケムラレイコ	鴻池朋子				
関連イベント	10/22 トーク「前橋政務日課」							
	11/2 上映+トーク「神々との饗宴」							
	11/10 ワークショップ「六感の森」							
	11/24 トーク「アートとフクシ」							
	12/1 トーク「マイノリティ」と「市民運動」							
	1/12 トーク「アウト・オブ・民藝」							
① 投入(支出)・③ 結果(収入)	印刷物等	ポスター(B2)	チラシ(A4)	セルフガイド	空のリーフレット	あかつきの村マップ	図録	
		2,000 部	80,000 部	5,000 部	3,000 部	5,000 部	700 部	
	収入/支出	収入(A)	支出(B)	収支比率(A)/(B)	入館者一人当たりコスト	収入内訳		
		観覧料	助成金	イベント参加費				
		予算	800,000 円	19,888,000 円	4.0%	3,315 円		
		決算見込	772,200 円	19,151,151 円	4.0%	4,083 円	772,200 円	
		差額	-27,800 円	-736,849 円	0.0%	-		
	予算/決算		96.3%		123.2%			
	② 内容・活動	【②内容】事業の概要	事業の概要(転記)	<ul style="list-style-type: none"> ・外部有識者による企画検討委員会の実施(計4回程度) ・参加作家数 30作家程度 ・新作制作 10作品程度 ・企画展/表現の森の内容に連動したシンポジウム及び上映プログラムを実施 				
		【②活動】主な取組(手段)の結果	広報戦略 新たな試み(転記)	<ol style="list-style-type: none"> 1.外部有識者と企画会議を重ねることで、専門性また社会課題に対する理解を深める。 2.福祉/医療/教育分野の人たちに関心を持ってもらえるような先進的な企画とする。 3.市役所内の他課及び市内の関連団体と連携しながら、広報活動を進める。 				
メディア等広報実績 新たな試み 図録 関連イベント 助成 など		広報実績 [新規掲載や効果が大きかった媒体など、特別な案件]	<ul style="list-style-type: none"> ・NHKおはよう日本(10/4 関東甲信越放送)で企画展開幕前にあかつきの村でのプロジェクトが取り上げられる ・毎日新聞(10/23)「前橋あかつきの村アート作品 映像や音で追体験」 ・上毛新聞(11/26)「触れて語って深まる鑑賞 美術館の視覚障害者支援」 ・美術手帳レビュー記事 					
●指標 来館者反応 手ごたえ アンケート		新たな試みの実績	<ul style="list-style-type: none"> ・あかつきの村内でPort Bによる作品を展開 ・上毛電気鉄道内に滝沢達史と共に作品を展開 ・視覚障がい者と共に作品を体験するプログラムを準備 ・表現の森事業との連携プログラムの充実 ・コンセプトブックを通じた新たな広報戦略 					

令和元年度 アーツ前橋事業評価調書(2)

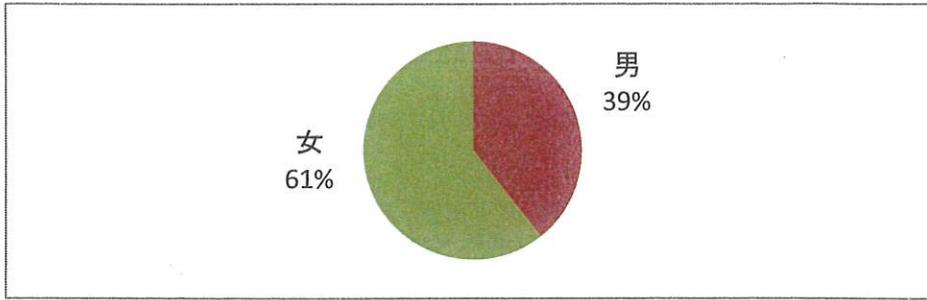
③結果	入場者数(参考数値) 上段:人数(人) 下段:割合(%) ※色付きは有料観覧者	一般	学生	65才以上	団体	高校生以下	招待券	割引等	視察	イベント	他	合計(人)	日平均(人)	
		有料観覧者率 60.4%	1570	76	176	20	339	917	993	200	300	100	4,691	70
③結果	事業名	表現の生態系 世界との関係をつくりかえる												
	一般指標	指標	目標値	達成値	達成率	特記事項								
		入場・参加者数	6,000 人	4,691 人	78.2 %	当初は地下ギャラリーで有料実施を想定								
進捗管理 [スケジュール観]	①概ね円滑に進んだ B.遅延気味であった() 開館後まで積み残しとなった事項(記録集作成)													
④成果	〔④成果〕 一覧表の「目標」に対する結果 観覧者層のターゲット ねらい	観覧者層のターゲット	美術／歴史愛好者、福祉／医療／教育に関わる方											
		成果	県外からの来場者も多く、美術関係者の間ではツイッターによる情報の拡散効果があった。アーツ前橋の展示のみならず、あかつきの村内のPort B作品は、遠方からの来場者が特に多く、美術や福祉関係者が足を運んだ。これまで表現の森に関わってくれている福祉関係者からは、今回の企画展を通じてこれまでのアーツ前橋のプロジェクトに対するビジョンを改めて理解する機会になったという意見をいただいた。											
		ねらい1 (転記)	1. 現代社会における美術館の役割を問い直す											
		成果	「芸術ではなく表現というフィールドをまたいだ展示が良かった。」という意見が出たように、人が表現することの意味をさまざまな視点から考え直すきっかけ作りができた。あかつきの村と連携することで、美術館の外でも美術がもつ可能性を											
		ねらい2 (転記)	2. 異なる専門分野の交流											
		成果	博物館学、人類学、社会学などの分野横断型の展示会であることを多くの来場者に感じていただけた。宗教や自然などの企画者側が提示したキーワードを作品を通じて理解をしてくださった方も多くいたようだが、一部の来場者にはわかりにくさが残ったようだ。											
		ねらい3 (転記)	3. 地域の歴史の再発見											
		成果	赤城山／国定忠治／山伏をテーマに新作制作を行った尾花賢一・石倉敏明、赤城山を信仰の山として考えた大本教とヨーゼフ・ボイスを繋げて展示を作った白川昌生、伊香保温泉のリサーチから新作を制作した山田創平、群馬の工芸の歴史を個人史と共に再編した中村裕太など、地域の歴史の発見に繋がる多くの新作が作られた。											
ねらい4 (転記)	4. アーティストと協働した新作発表の機会の創出													
	成果	新作を制作した作家が7名、事前のワークショップや話し合いを元に展示を作った作家が1名、プロジェクトを展示した作家が4名と今回の企画展が多くの新作発表の機会となった。												
⑤波及効果	個別評価	<1～6は、記入項目の例・無い場合は「後日記入」。独自の評価項目の設定可。記入日を記載> 1. 参加作家のその後の活動を評価⇒これまでパフォーマンスを中心に活動を行っていたブブ・ドラ・マドレーヌは初めて立体作品を試みることで、今後の新たな展開に繋がった。(2020.03.16) 2. アーツの事業に対して、誰がどのような価値を見出したのかを評価⇒後日記入 3. 事業関係者(作家、運営、イベント参加者、地域住民)たちとの間で生まれた交流やその後の関係性の構築を評価⇒尾花賢一は、文化人類学者の石倉敏明と共に新作を制作することでソロ活動では見られなかった表現にたどり着くことができた。(2020.03.16) 4. 事業の実施に伴う波及効果 ⇒本展を通じて出会ったアリスの広場とハレルワが共同で中心市街地のオリオン通り「まちの保健室」という若者の居場所づくりを始めた。(2020.03.16) 5. 地域資源の活用という点での効果 ⇒あかつきの村で作品展開をすることで、地域の中で開かれた福祉を実践する施設を発見してもらうことができた。(2020.03.16) 6. 意図せざる(思わぬ)効果 ⇒後日記入												
	※記入日を〇内に入れてください ※概ね1年経過後に再確認して修正													
自己評価(担当者)	効率性 ①:③ 事業が効率的だったといえるか	1.非常に良い	②良い	3.普通	4.劣る									
	合目的性 ②:④ 事業の目的を達成したといえるか	1.非常に良い	2.良い	③普通	4.劣る									
	事業の将来性 ②:⑤ 館の事業に対し将来性があるか	1.非常に良い	②良い	3.普通	4.劣る									
	社会的将来性 ③:⑤ 社会への影響に将来性があるか	1.非常に良い	②良い	3.普通	4.劣る									

令和元年度 アーツ前橋事業評価調書(3)

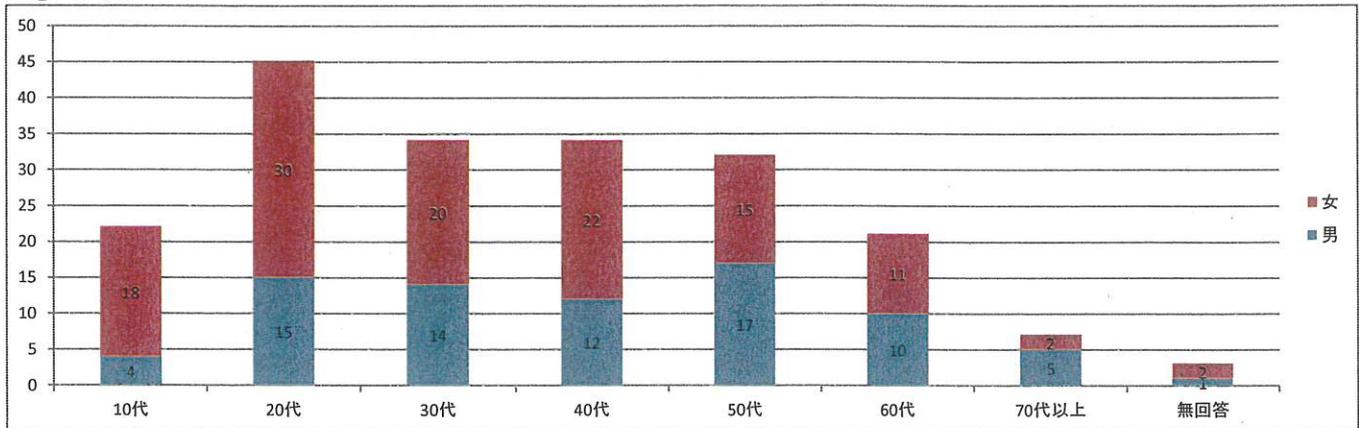
自己評価 (担当者)	課題・改善点	<p>企画委員との長期の関係性の中で作られたコンセプトだったため、それぞれに思い入れが大きなものだったが、それゆえに一部の来場者には理解しにくい内容であったようだ。コンセプトマップを作成することで、現代アートの展覧会に慣れていない来場者へも理解を促すためのツールを準備したが、十分ではなかったようだ。</p> <p>長い映像作品もあったため、作品鑑賞に時間がかかる企画展であることを配慮し、入場をパスポート制にするなどの工夫をすべきだった。</p>
引継ぎ事項 (特記事項)		<p>ツイッターをうまく利用しての広報発信はできたが、そのほかのSNSでの情報拡散を工夫することができなかった。写真映える作品も多くあったことから、インスタグラムを利用することで若者たちへの情報拡散を試みるべきだった。</p>
コメント・意見	館長 副館長	<p>美術の領域横断性と地域性、及び館外事業で取り組んできた連携を展覧会の形式として見せることに成功していた。新しい作品の制作を支援したことも大きな成果と言える。こうした特徴をどのように発信していけばよいか、常に意識し続けていきたい。</p>
	運営 評議会	

最終更新日: R2.3.17

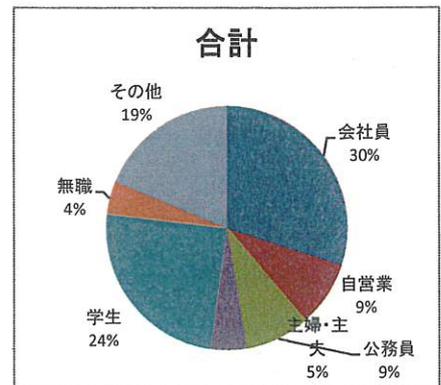
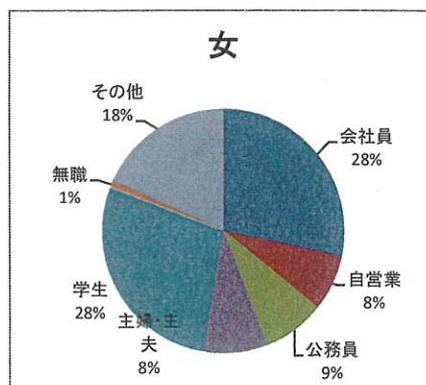
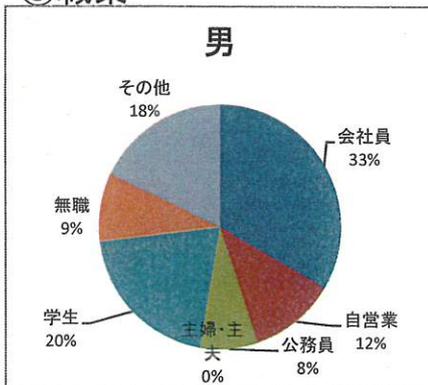
① アンケート回答数(207人 …男78 女120 他9)



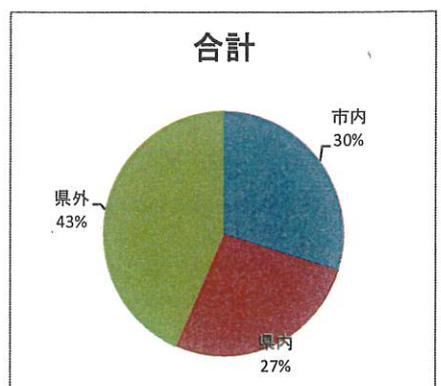
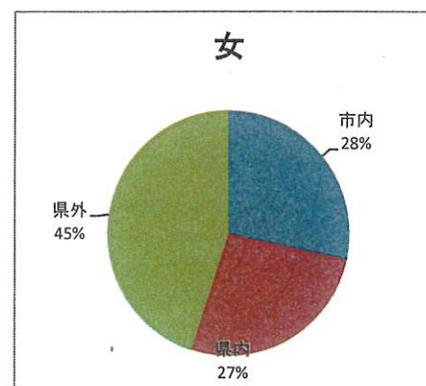
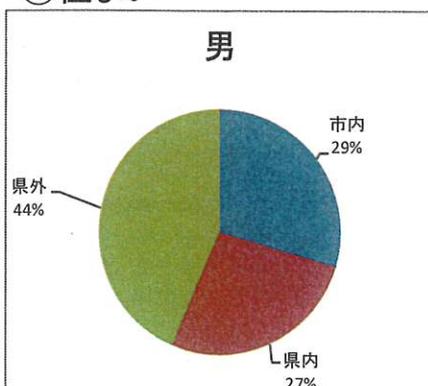
② 年代



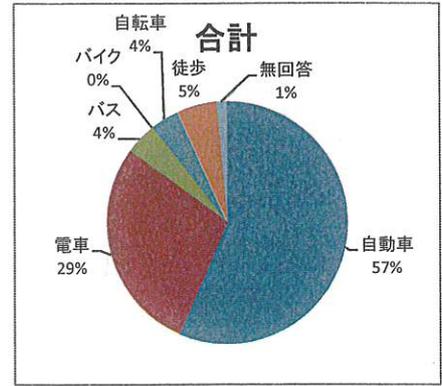
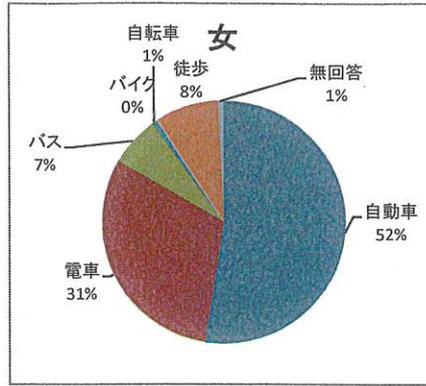
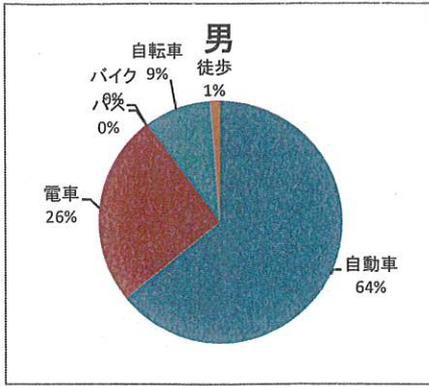
③ 職業



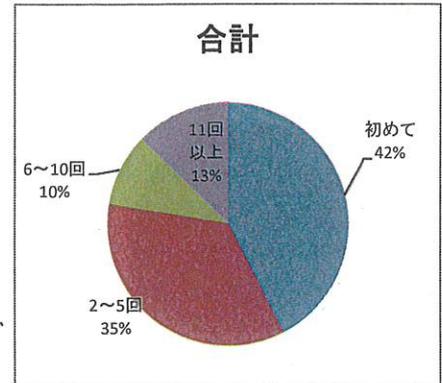
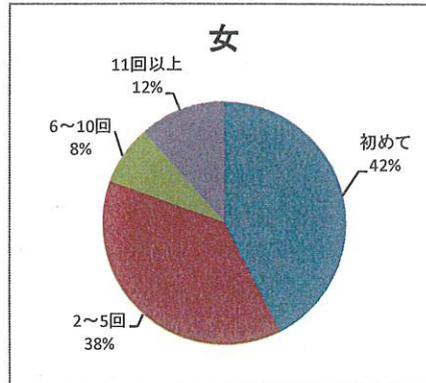
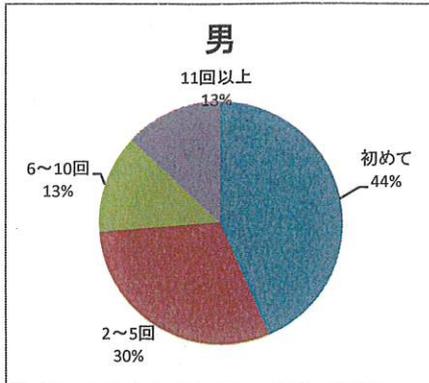
④ 住まい



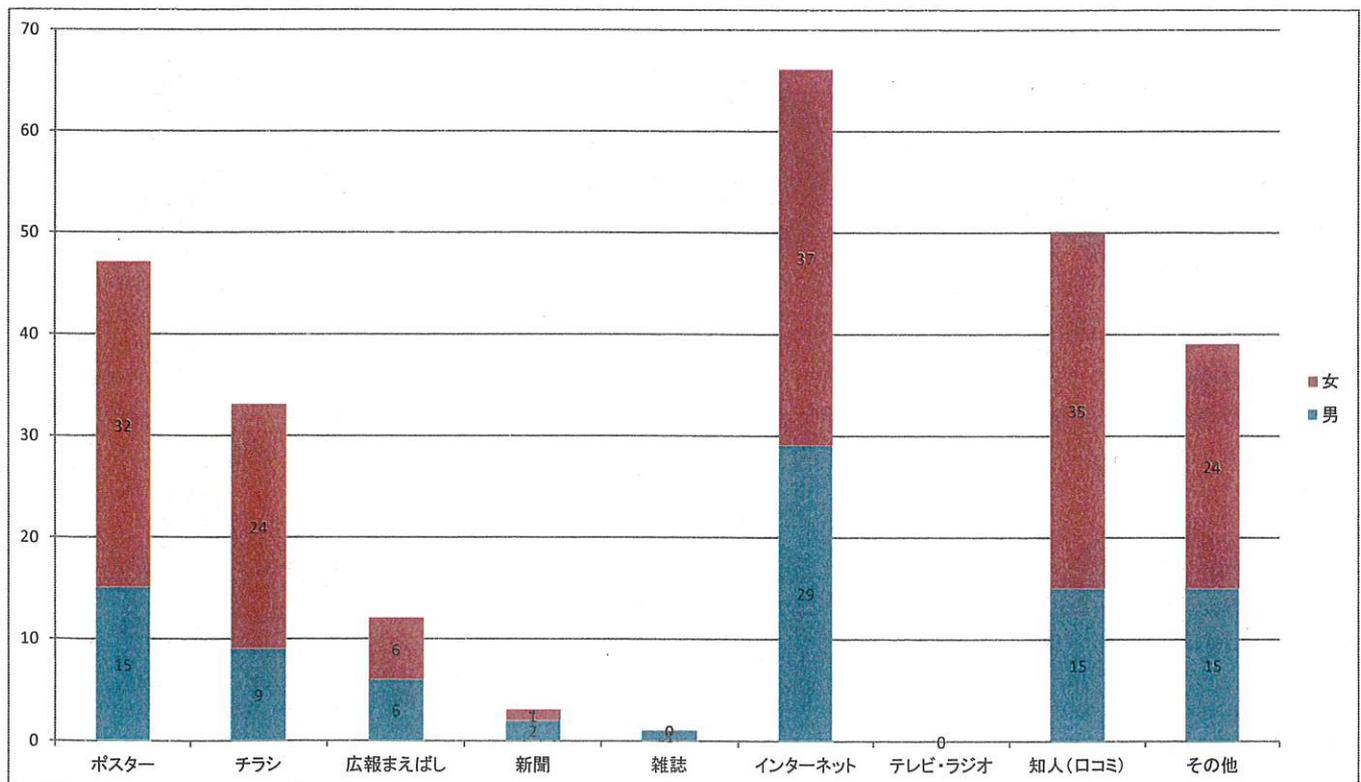
⑤交通手段



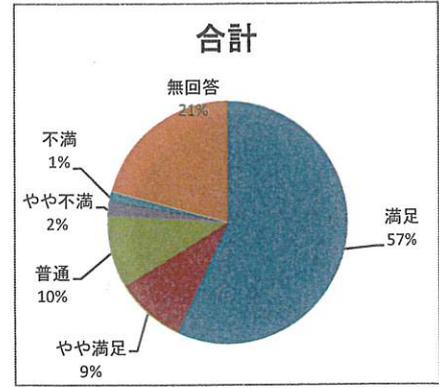
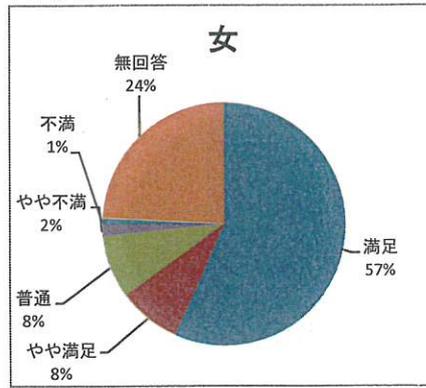
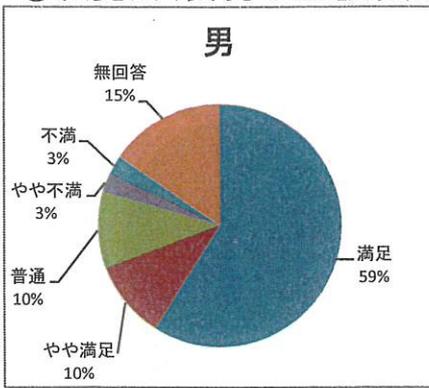
⑥来館回数



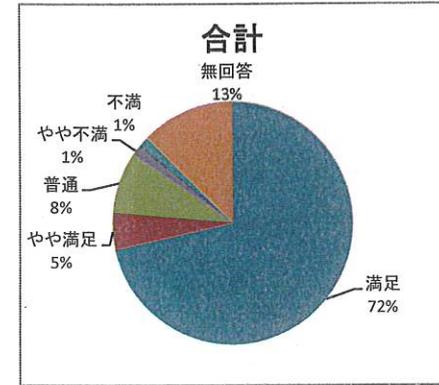
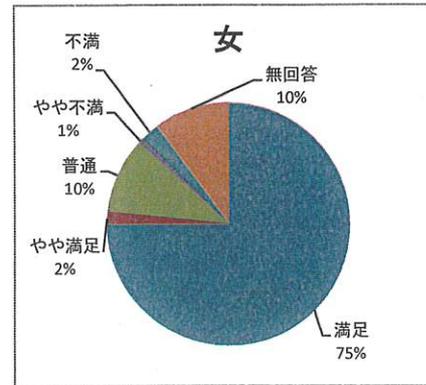
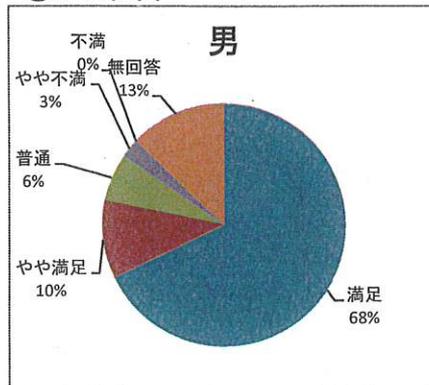
⑦企画展等を知った方法(※複数回答あり)



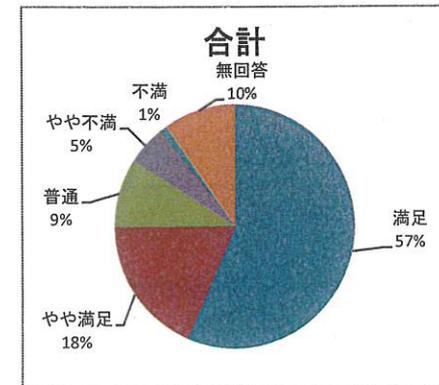
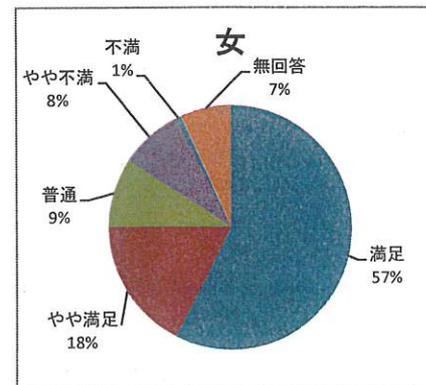
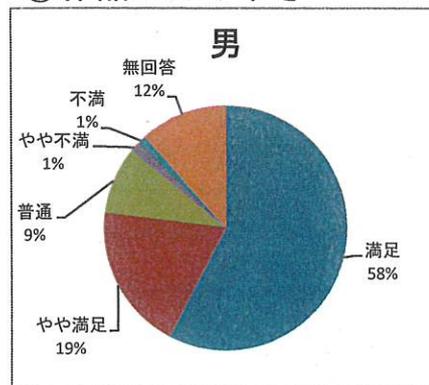
⑧ 展覧会(表現の生態系展)の内容



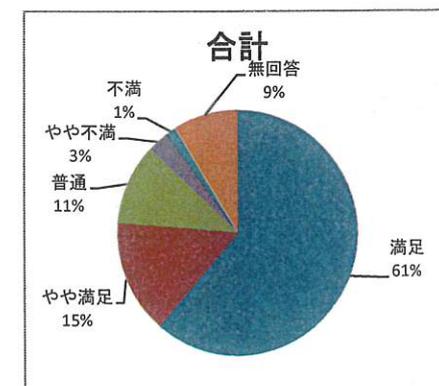
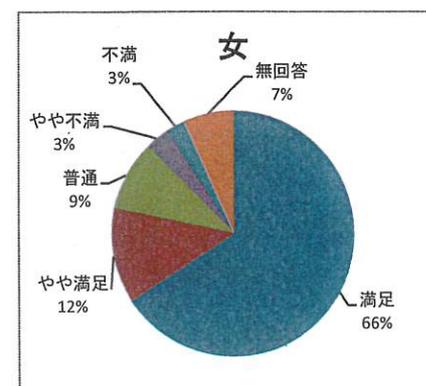
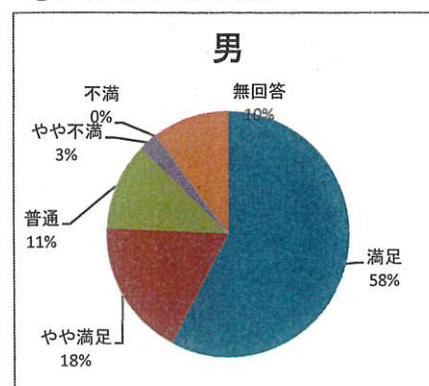
⑨ 入館料



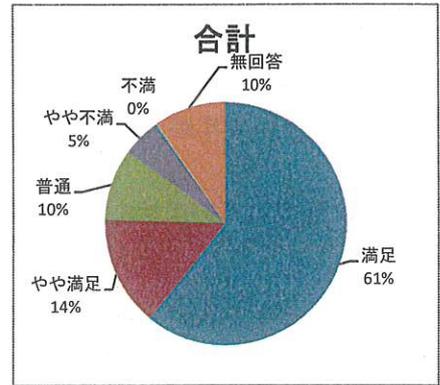
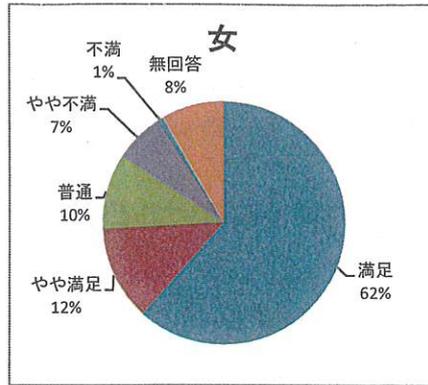
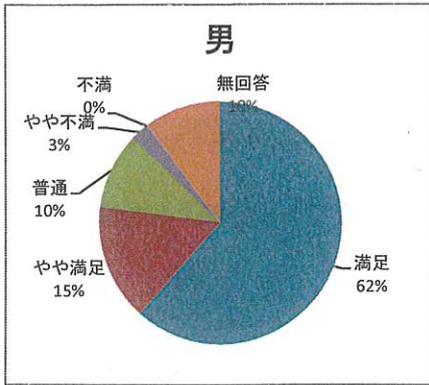
⑩ 作品のみやすさ



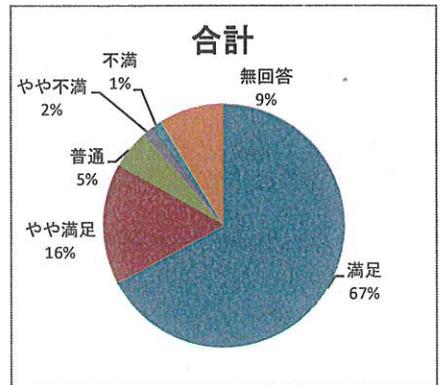
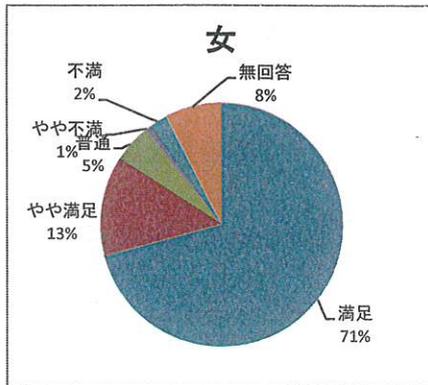
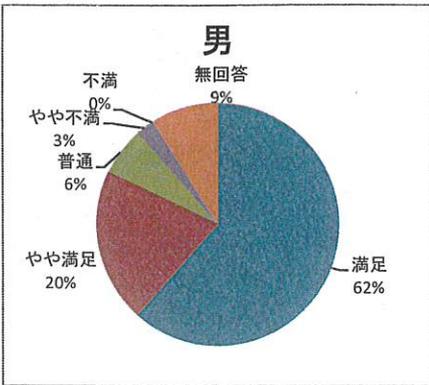
⑪ スタッフの対応



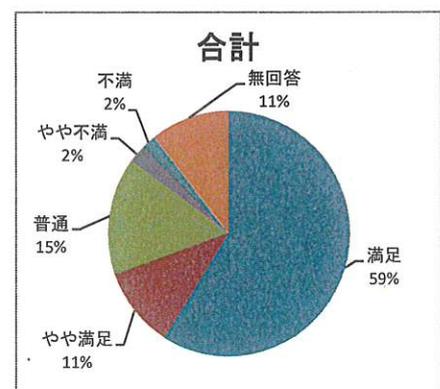
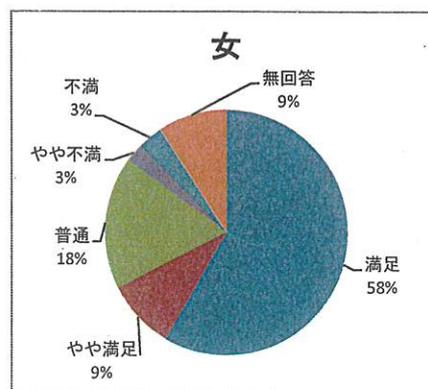
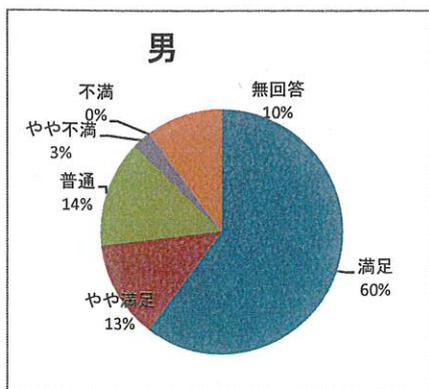
⑫施設の利用のしやすさ



⑬アーツ前橋全体の印象



⑭アーツ前橋までの道順のわかりやすさ



(主な感想・意見)

- 30分を超えるような映像作品がやけに多くありましたが、それほど長いものをいくつもつくっても観て行く人がいるでしょうか。構成が非常に不満です。(男性・40代)
- 博物学と人類学の現代アートが繋がり、とても刺激的。見どころ満載でした。(女性・50代)
- 自然や人、性別や年齢、宗教や思想、時間や環境。私を取り巻く普通のことのことが特別に思える展覧でした。(女性・20代)
- 作品は全部見れていませんが、新聞の一面には出てこないけれども、社会に確実に存在している人たちを丁寧にすくった作品で興味深かった。(女性・40代)
- 作品の解説がもっと欲しいと思った。多岐にわたりすぎている？(性別回答無し・30代)
- 特に前半の作品が力強く、そこから後半に向かってどんどんこの展示の中に入り込んでいける雰囲気良かった。この展示に携わった学芸員、スタッフの方がうらやましいくらい(女性・20代)
- 3回見に来ました(それ以外にトークに2回参加)何度も見たいくなる展覧会は十数年ぶりだと思います。ぐんまでは、なかなか面白い展覧会がありませんでしたが、これはとても良かったです。また、このようなテーマで展示してほしいです。福祉関係の人たちも見てほしいです。(女性・30代)
- 作品の鑑賞のみにとどまらず、自分自身の生き方や日常を捉え直す様な視点(テーマ)が魅力的でもあり、ある部分生活に役立つと思った。(女性・60代)
- 表現ということを深いところからあぶり出していく展示はとても良かったです。(女性・40代)

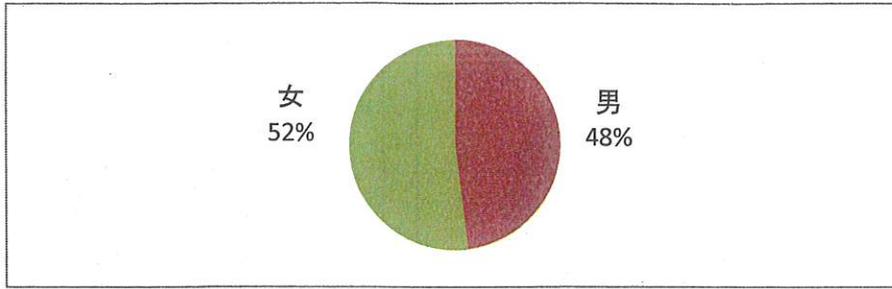
令和元年度 アーツ前橋事業評価調書(1)

基本事項	事業名	前橋の美術2020 トナリのビジュツ											
	会期	2020/2/8-2020/3/3(3/15) /32							開館日数	23 日間			
	会場(ギャラリー)	全ギャラリー							実施方式	01自主企画・単独方式			
	観覧料	一般	-						出品点数	170点			
		割引	-										
	担当者	学芸:若山満大 事務:小屋綾子、塚大輔											
	目的(一覧表)	前橋ゆかりのアーティストの活動を通して、地域の芸術文化の現在を知ることができる。また、地域とアーティストの協働活動によって、次世代を担う若者や子どもたちに己の芸術文化を継承することを目指す。											
	キーワード	前橋の美術 街なか 学校 福祉施設 地域 市民 文化活動											
	他団体との連携(共催・協力等)	前橋の美術実行委員会 上毛新聞 アートギャラリーミュージズ 画廊翠巒 ギャラリーあーとかん ギャラリーアートスーヴ ギャラリーオーツォー ぎやらりー君香堂 ギャラリーFROMまえばし 点 Gallery 中之沢美術館 ノイエス朝日 ヤマトギャラリーホール 株式会社鈴木ストア map 前橋「市民」ギャラリー 障害福祉サービス事業所 ぶらーな											
	参加作家	実行委員長 今井充俊 全47名											
関連イベント	2/8 パフォーマンス(Makoto)・ギャラリートーク 2/9 ダンス:Abe"MA"ARIA・ギャラリートーク・街なか展示ツアー 2/15 ギャラリートーク 2/22 ダンス:Abe"MA"ARIA・ギャラリートーク												
① 投入(支出)・③ 結果(収入)	印刷物等	ポスター(B2)	チラシ(A4)	館内マップ	セルフガイド	リーフレット	図録						
		1,100部	71,000部	-	-	-	1,000部						
	収入/支出	収入(A)	支出(B)	収支比率(A)/(B)	入館者一人当たりコスト	収入内訳							
						観覧料	助成金	他					
		予算	- 3,300,000円	-	660円								
		決算見込	3,300,000円		1,063円								
差額	-												
予算/決算		100.0%											
② 内容・活動	【②内容】事業の概要	事業の概要(転記)	「前橋の美術2017」の継続と発展を企図して開催される展覧会および市民参加型イベント。アートを通して地域社会のつながりを再認識する。										
	【②活動】主な取組(手段)の結果 メディア等広報実績 新たな試み	広報戦略 新たな試み(転記)	1.市民とアーティストが対話する場をつくる 2.展覧会と同時期に市内ギャラリー各所で連携企画展を開催する 3.アーティストが学校や福祉施設等に共同事業を提案・実施する										
	図録 関連イベント 助成 など	広報実績 [新規掲載や効果が大きかった媒体など、特別な案件]	・上毛新聞連載(全15回) ・雑誌『月刊ギャラリー』小特集記事掲載										
	●指標 来館者反応 手ごたえ アンケート	新たな試みの実績	・中心市街地で6名の作家が展示・パフォーマンスをおこなった ・学校や福祉施設へのアーティスト派遣										
③ 結果	入場者数(参考数値) 上段:人数(人) 下段:割合(%) ※色付きは有料観覧者	一般	学生	65才以上	団体	高校生以下	招待券	割引等	視察	イベント	他	合計(人)	日平均(人)
		1,971	10	683	33	167		40		100	100	3,104	135
	有料観覧者率 88.2%	63%	0%	22%	1%	5%	0%	1%	0%	3%	3%		
③ 結果	一般指標	指標	目標値	達成値	達成率	特記事項							
		入場・参加者数	5,000人	3,104人	62.1%	コロナ対策で、3/3で閉幕							
		展覧会満足度	80%	81.7%	1.7 pt	アンケートに、「満足」、「やや満足」と記入があった割合(無回答を除く)							

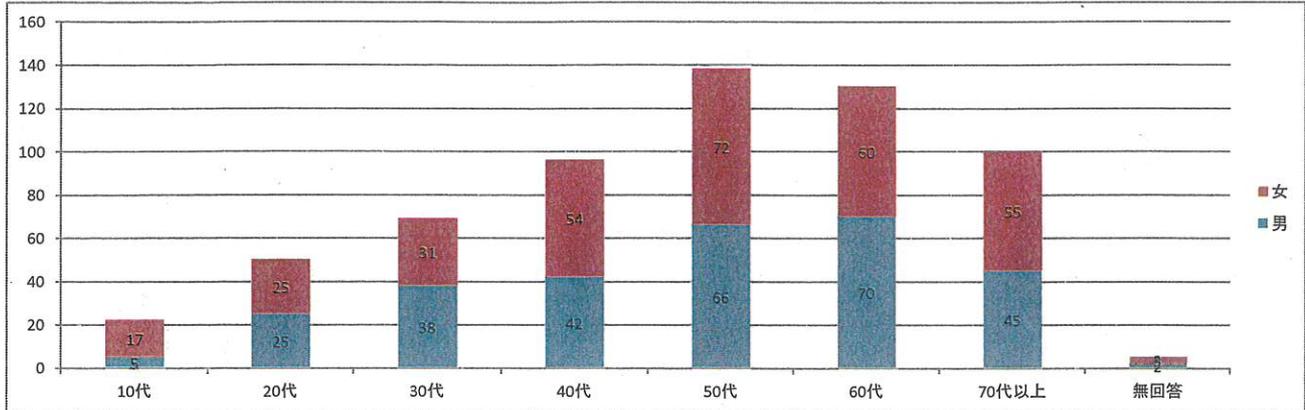
令和元年度 アーツ前橋事業評価調書(2)

③結果	事業名 前橋の美術2020 トナリのビジュツ	①概ね円滑に進んだ B.遅延気味であった() 開館後まで積み残しとなった事項()
④成果	【④成果】 一覧表の「目標」に対する結果 ・観覧者層のターゲット ・ねらい	観覧者層のターゲット(転) 前橋市民、若年層 成果 概ねねらい通りであった。参加作家の家族や友人知人が数多く来館していた。普段美術館に足を運ばない市民、子育て世代や高齢者の来館が多くみられた。 ねらい1 (転記) ① 前橋ゆかりのアーティスト、ギャラリーほか、アートにかかわる様々な事業主体がネットワークを形成する 成果 概ねねらい通りであった。11のギャラリーと私設美術館と連携して関連企画をおこなった。また、市内中学校1校および福祉施設1か所でアーティスト派遣事業を実施した。 ねらい2 (転記) ② コミュニティの協働と活性化 成果 概ねねらい通りであった。アーツ前橋のほか、中心市街地5か所での活動や市内外の協力ギャラリーの企画によって、来場者が市内を回遊するしくみが見えた。また市内外の団体個人あわせて63件から協賛を受けた。 ねらい3 (転記) 成果
⑤波及効果	個別評価 ※記入日を〇内に入れてください ※概ね1年経過毎に再確認して修正	<1～6は、記入項目の例・無い場合は「後日記入」。独自の評価項目の設定可。記入日を記載> 1. 参加作家のその後の活動を評価 ⇒ 後日記入 2. アーツの事業に対して、誰がどのような価値を見出したのかを評価 ⇒ 後日記入 3. 事業関係者(作家、運営、イベント参加者、地域住民)たちとの間で生まれた交流やその後の関係性の構築を評価 ⇒ 学校や福祉施設へのアーティスト派遣企画「アートゆい」では、会期終了後も継続的に活動を行っていくことになった。(2020.03.18) 4. 事業の実施に伴う波及効果 ⇒ 後日記入 5. 地域資源の活用という点での効果 ⇒ 閉廊した「鈴木ストアギャラリー」の活動を振り返る展示をおこない、前橋の文化活動について市民に関心を持ってもらうことができた。(2020.03.18) 6. 意図せざる(思わぬ)効果 ⇒ 当館サポーター有志が本展に合わせて自主企画展を開催した。また感染症対策の一環で繰り上げ閉幕となったことを受けて、アーティスト有志が当館交流スペース(ウインドウギャラリー)で展示を行った。(2020.3.18)
自己評価(担当者)	効率性 ①:③ 事業が効率的だったといえるか 含目的性 ②:④ 事業の目的を達成したといえるか 事業の将来性 ②:⑤ 館の事業に対し将来性があるか 社会的将来性 ③:⑤ 社会への影響に将来性があるか 課題・改善点	1.非常に良い 2.良い ③普通 4.劣る 1.非常に良い ②良い 3.普通 4.劣る 1.非常に良い ②良い 3.普通 4.劣る 1.非常に良い ②良い 3.普通 4.劣る ・実行委員と市職員の業務分掌がはっきりしなかったため事業の進行に支障が出た ・出品作家の選考過程の不透明さを指摘された ・作家それぞれと連絡をとる担当者が不足したため、展示設営に際して十分なケアができなかった ・各作家の作品への把握が不十分だったことで、害虫が付着した生木などを展示室に持ち込まれた
引継ぎ事項(特記事項)		・実行委員会の座組が固まったら早急に覚書・委員会規約・業務分掌を策定する ・実行委員が参加作家一人一人と連絡を取り合い、展示物および展示計画を具体化する
コメント・意見	館長 副館長 運営 評議会	来館者数も順調だっただけに途中休止が悔やまれる。関連企画のギャラリー展示と協賛の多さは特筆するべきで、市内の美術関係者に広く浸透した成果を感じる。参加作家が地域社会のことを意識するようになる点も開催意義として認められた。

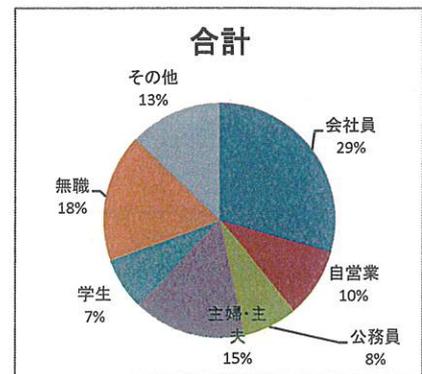
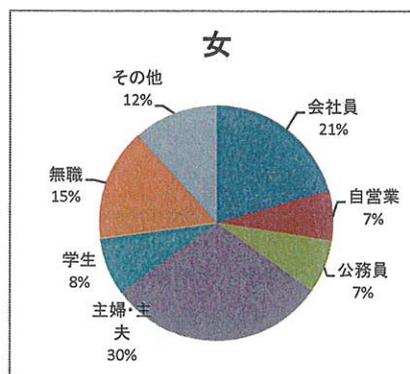
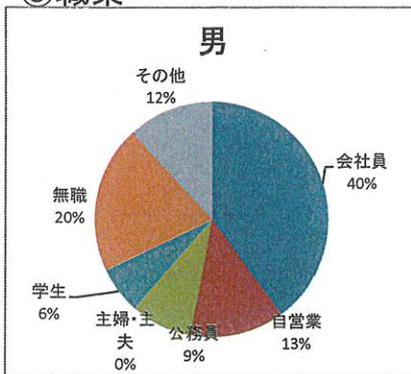
①アンケート回答数(620人 …男293 女317 他10)



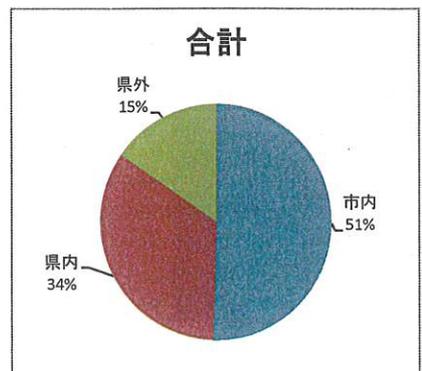
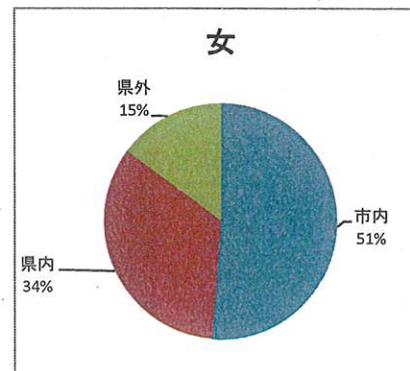
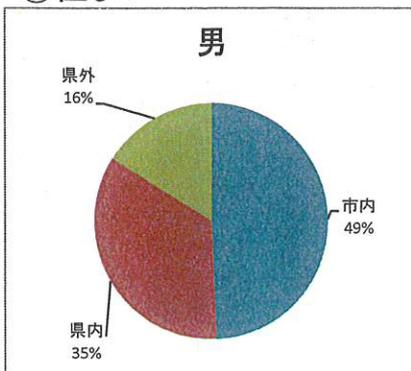
②年代



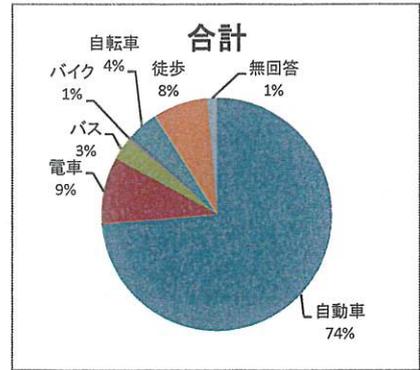
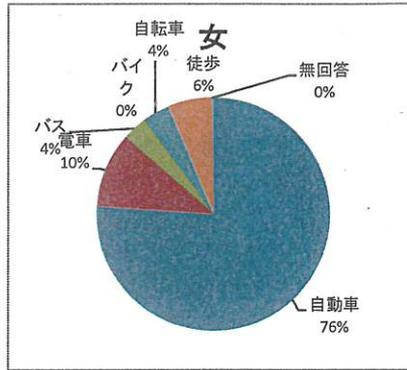
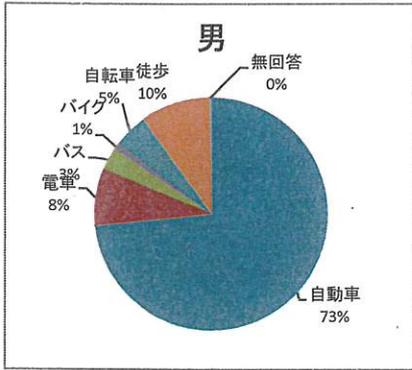
③職業



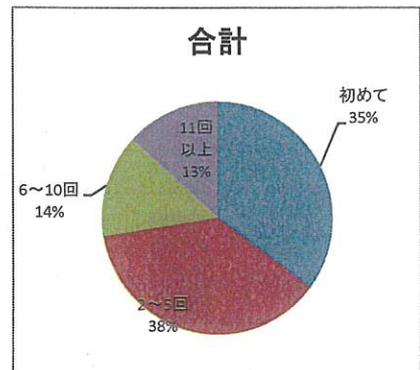
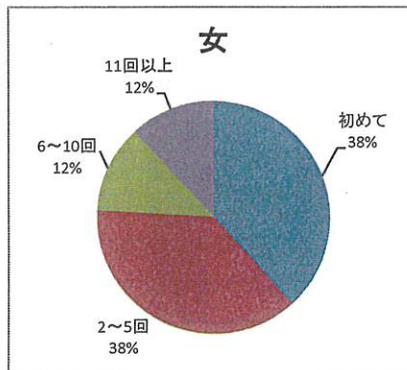
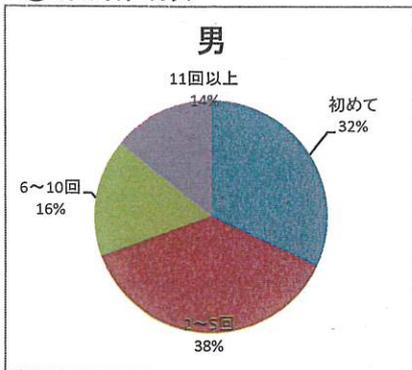
④住まい



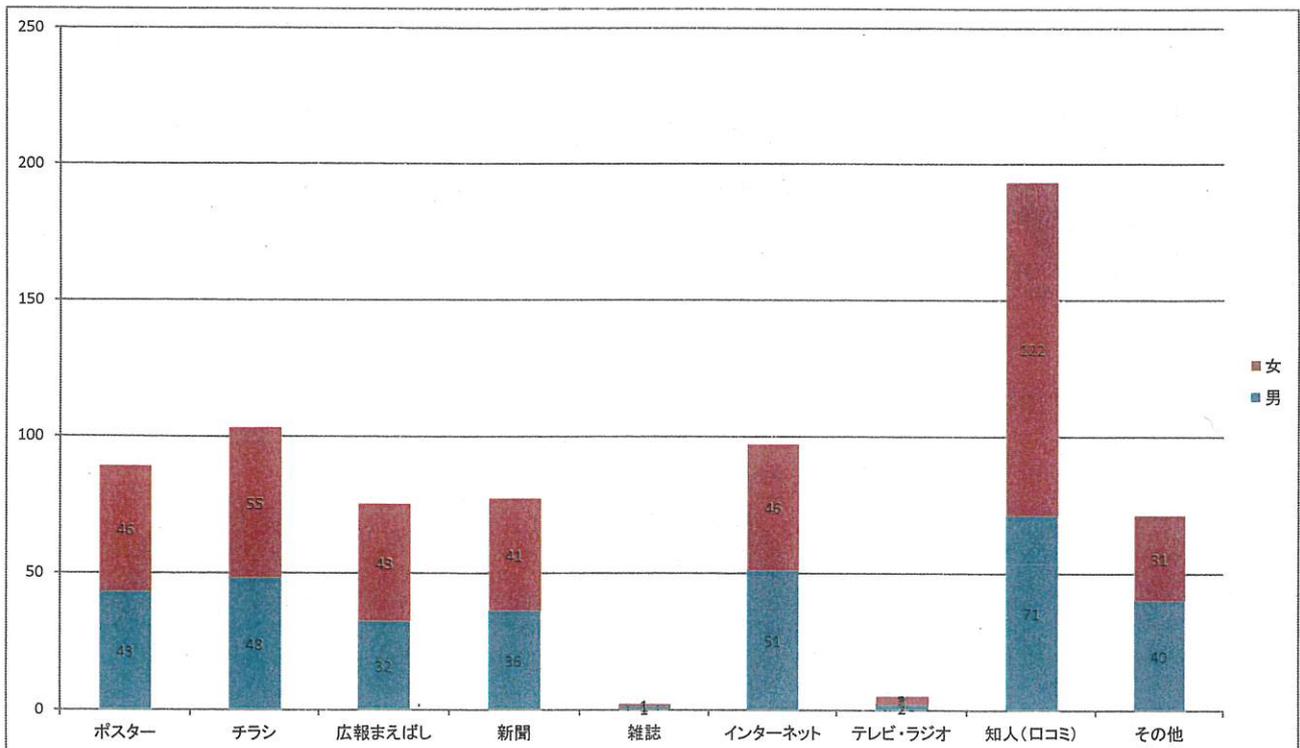
⑤交通手段



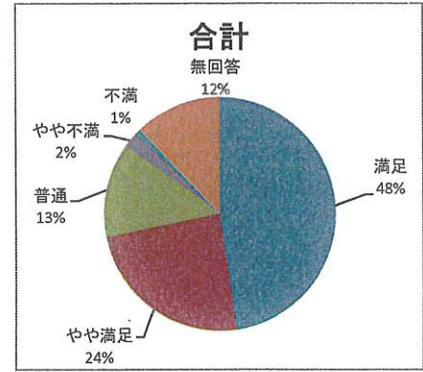
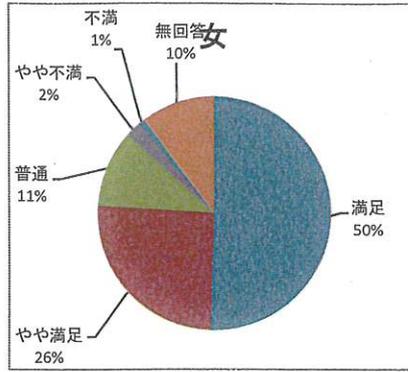
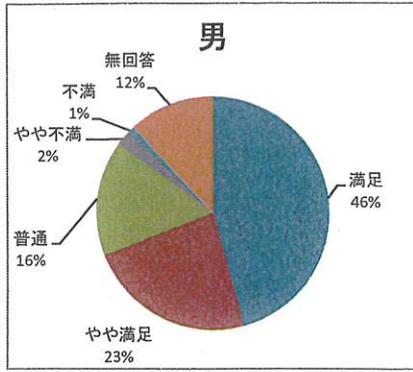
⑥来館回数



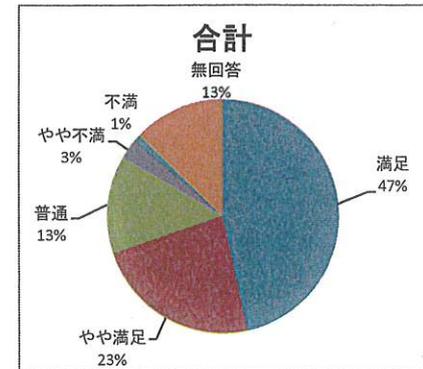
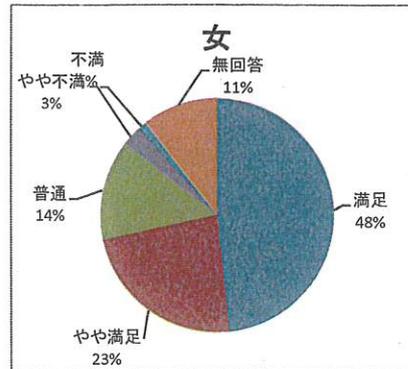
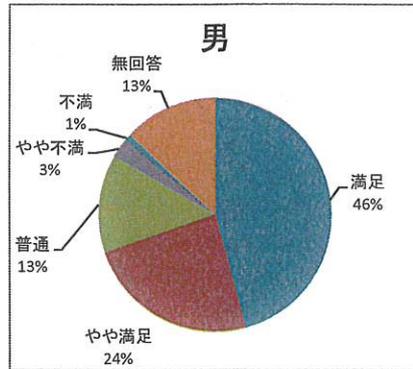
⑦企画展等を知った方法(※複数回答あり)



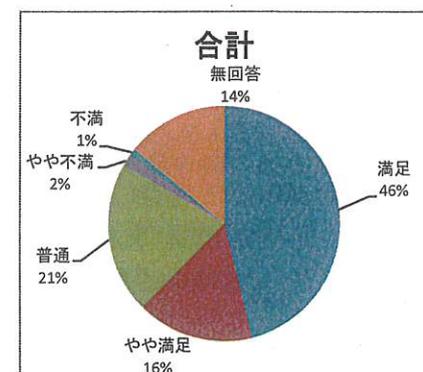
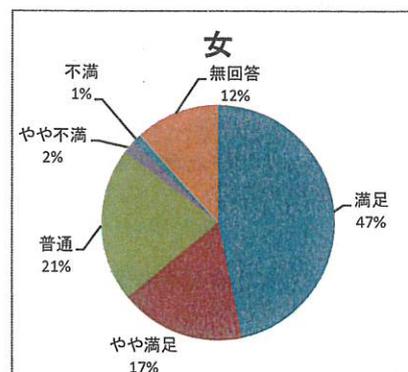
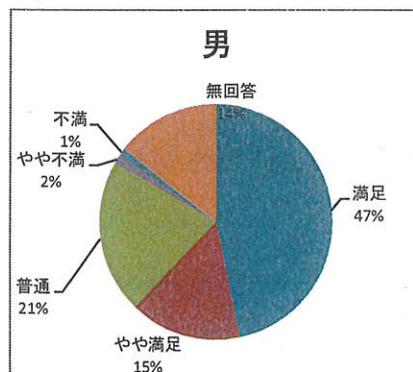
⑧ 展覧会(表現の生態系展)の内容



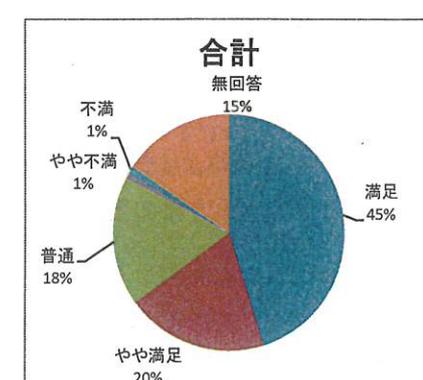
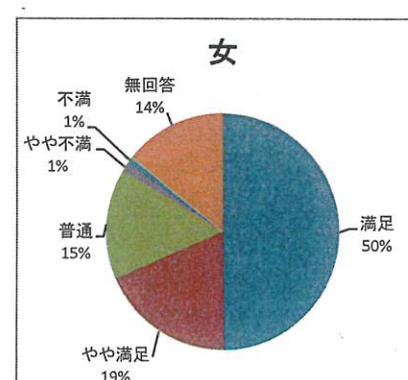
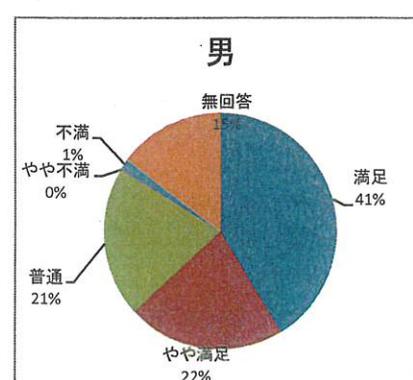
⑩ 作品のみやすさ



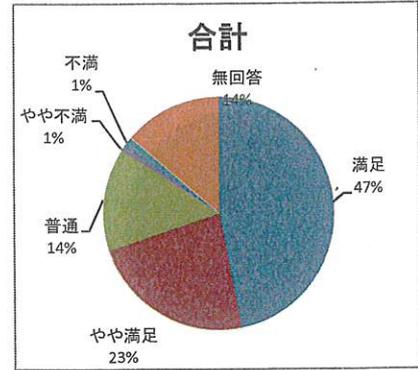
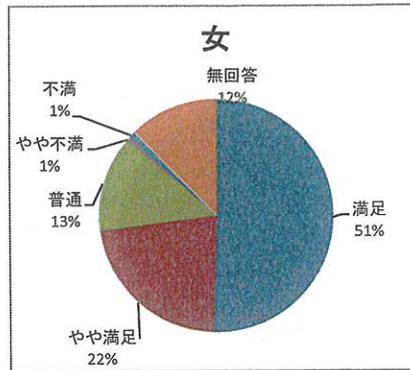
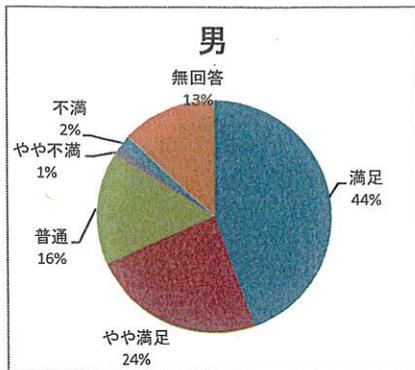
⑪ スタッフの対応



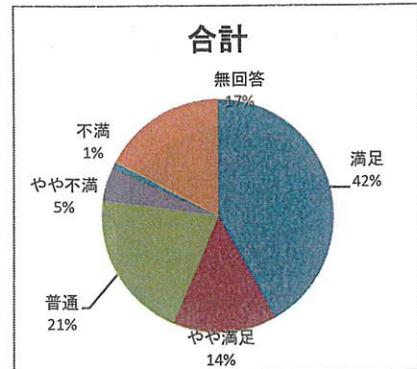
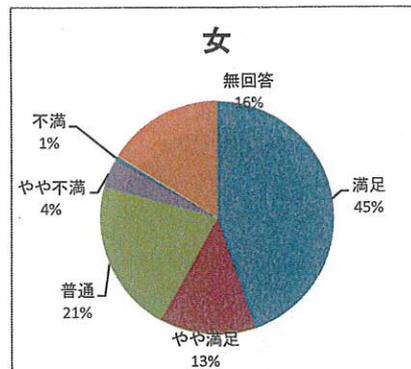
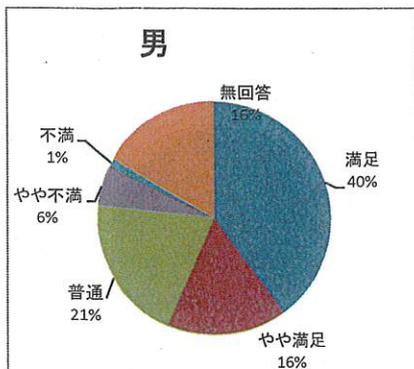
⑫ 施設の利用のしやすさ



⑬ アーツ前橋全体の印象



⑭ アーツ前橋までの道順のわかりやすさ



(主な感想・意見)

- 前橋にたくさんのアーティストの方がおられるのだと改めて思った。いろいろなジャンルの作品が拝見でき楽しかった。障害のある方の作品が迫力あり、とてもよかった。1Fと地下の。無料で刺激的な作品がたくさん拝見できてうれしい。次回(3年後?)も楽しみにしています。(女性・50代)
- 全体的に中途半端(男性・50代)
- トナリノのビジュツ街中の活動に参加しました。前橋市出身ですが知らなかった場所・店についてふれて、そこで知ったスズキストアさんの美術品が、とても心に残りました。また、美術作品を作った作家さん 喜多村さん 八木さん 藤口さん他の芸術に対する想いが聞けたのが一番心に響きました。まだ心豊かになる時間となりました。どうもありがとうございました。今後も応援できることがあったらしたいと思います。(女性・40代)
- 前橋の街がさびれてしまっても、やはり前橋が好きなので、このような展覧会は嬉しい。(男性・30代)
- 県出身者であっても、知られていない方は出展していないのですかね。広く公募したのですか(その辺がわかりにくい 知られていない)(男性・60代)
- 総体的に楽しかったです 孫が美術に興味をもっているの で 孫と一緒にこられてよかったです。今後も良い企画を是非ともお願いしたいです 孫、高経大1年生です。発表には出費かかって大変でしょうが県民の1人として感謝致しております 中之条町よりまいりました ありがとうございます。感謝しております。(男性・70代)
- 前橋にゆかりのある方々の展覧会でコメントを読んでいた嬉しくなりました。同じ時代の町を知っていらっしやる方もとてもなつかしい気持ちになりました。前橋をおもう気持ちや持っている思い出など知ることができ住んでいる自分も、もっと前橋を大切におもおうと思いました。(女性・50代)
- 美術系の勉強をしてきて、地元の作家さん数人知っていたので来ました。色々な作品があり、身近におられるので、刺激を受けました。今までアーツに入っていなかった理由として、元気21目的で来ていて、子連れで入りづらい雰囲気がありました。是非子どもも楽しめる、体験型アートの展示をお願いします。(女性・40代)

令和元年度 アーツ前橋事業評価調書(1)

基本事項	事業名	滞在制作事業(海外)						
	事業1	アーティスト	キム ジェミニ	期間	6/3-8/29 滞在	日数	88	
	事業2	アーティスト	増田拓史	期間	7/3-8/30 滞在	日数	59	
	事業3	アーティスト	カシャ・フダコウスキ	期間	12/9-2020/2/9 滞在	日数	63	
	担当者	学芸:五十嵐純、吉田絵美、池上朋 事務:塚大輔、狩野良輔						
	目的・目標 (総括表)	多様な国や地域で活動するアーティストを地域に紹介し、創作活動を支援。また、海外のアーティストの目を通して地域資源の発掘につなげる。前橋で制作された作品が海外で発表される。地域の作家や住民との長期的な関係性を構築する。						
	キーワード	創作活動を支援、地域資源の発掘						
	他団体との連携 (共催、協力等)	コーディネート業務を一部外部に委託 国立現代美術館レジデンシー・コヤン(MMCA Residency Goyang)／韓国(二国間交流事業)						
	参加作家	キム・ジェミニ(二国間交流)		増田拓史(二国間交流)		カシャ・フダコウスキ		
	関連イベント・人数	キム・ジェミニ オープンスタジオ／肉じゃがマスターチャレンジin前橋 8月24日(土) :84名 (増田拓史 MMCA Residency Goyang International Residency exchange Program Artist Exhibition 8月9日～22日／韓国) (キム・ジェミニ MMCA Residency Goyang Open Studio 2019 11月7日～9日／韓国) カシャ・フダコウスキ パブリックプログラム 2020年1月26日(土):21名 増田拓史 成果報告会 2020年3月14日(土) ※中止						
① 投入(支出)・③ 結果(収入)	印刷物等	ポストカード(キム・ジェミニ)	ポストカード(カシャ・フダコウスキ)	ポストカード(増田拓史)				
		1,000部	1,000部	500部				
	財務指標	収入(A) 別表から転載	支出(B) 別表から転載	収支比率 (A)／(B)	一人当たり コスト	収入内訳		
						観覧料	文化庁	自治体他
	予算	-	5,824,200円	-	-	-	-	-
決算見込	-	3,359,923円	-	-	-	-	-	
差額		-2,464,277円	-	-	-	-	-	
予算/決算		57.7%	-	-	-	-	-	
② 内容・活動	〔②内容〕 事業の概要	事業の概要 (転記)	国内外で活躍する外国人作家を招聘し、滞在制作活動を行なう。					
	〔②活動〕 主な取組(手段)の 結果	広報戦略 ・新たな試み (転記)	アジアを中心とした地域のアーティストを招聘し、地域の外国人との交流を生む。					
	メディア等広報実績 ・新たな試み ・関連イベント ・助成 など	広報実績 [新規掲載や 効果が大き かった媒体な ど、特別な案]	8/27 上毛新聞「肉じゃがもアート 滞在制作キムさん 食べ比べ思い語る」 (キム・ジェミニ オープンスタジオ)					
	●指標 来館者反応 手ごたえ アンケート	新たな試 みの実績	韓国のMMCA Goyang Residencyとの交流プログラムを開始し、両国においてオープンスタジオなどのプログラムが実施され、アーツ前橋の滞在制作事業の海外発信となった。 R2年度からは韓国のほか、台湾とも交流プログラムを開始し、3か国間の交流と成果発表となる展覧会開催および3か国への巡回の検討を始めている。					
③ 結果	数値目標	指標1	目標	イベント回数:3回	実績	3回		
		指標2	目標	参加者数:200名	実績	130名		
			目標		実績			
		コミット人数(事業・イベント等参加者数・実績)				---		
進捗管理 [スケジュール観]	①概ね円滑に進んだ B.遅延気味であった(内容:							

令和元年度 アーツ前橋事業評価調書(2)

	事業名	滞在制作事業(海外)																					
④ 成果	〔④成果〕 期待に対する結果 ・観覧者層のターゲット ・ねらい	観覧者層のターゲット (転記)	近隣住民、市内在住者																				
		成果	キム・ジュミニの滞在においてはリサーチの対象となった植民地時代から現在につながる食文化としての「肉じゃが」「農業」についてのリサーチとなり、一般参加の可能なワークショップを開催するなどこれまでとは異なる層の来場者が訪れる結果となった。 カシャ・フダコウスキのリサーチでは、地域の手話コミュニティーの協力や、映像出演に際し、多くの地域住民の参加があった。																				
		ねらい1 (転記)	①地域資源の発掘																				
		成果	キムの滞在では、地域の農家、製粉工場などを取材し、映像作品の一部となった。 フダコウスキは前橋を象徴する建物である「臨江閣」や、地元の蕎麦屋、レストランなどの前橋市内をロケ地に活用し映像制作を行った。																				
		ねらい2 (転記)	②海外での発信																				
		成果	増田、キム両名のプログラムが韓国のMMCA Goyang Residencyで行われた。 フダコウスキが撮影した映像作品が、今後ドイツを中心とした海外で発表される予定である。																				
		ねらい3 (転記)	③多文化交流の機会創出																				
成果	キム、フダコウスキともに多くの市民との交流を行い、作品へ出演や協力が見られた。																						
⑤ 波及効果	個別評価 ※記入日を()内に入れてください ※概ね1年経過毎に再確認して修正	<p><1～6は、記入項目の例・無い場合は削除。独自の評価項目の設定可。記入日を記載></p> <p>1. 参加作家のその後の活動を評価⇒後日記入</p> <p>2. アーツの事業に対して、誰がどのような価値を見出したのかを評価 ⇒後日記入</p> <p>3. 事業関係者(作家、運営、イベント参加者、地域住民)たちとの間で生まれた交流やその後の関係性の構築を評価⇒キム氏は、自身の作品制作のため、自費にて再来日し、田植えにかかわった農家の稲刈りに携わった。(2019/11/14)</p> <p>4. 事業の実施に伴う波及効果⇒増田は、韓国滞在中に台湾で行われる芸術祭の参加が決定した。(2019/11/14)</p> <p>5. 地域資源の活用という点での効果⇒キム氏は農業に興味を持ったことから市内の農家の田植え・収穫に携わり、映像作品の制作へとつながった。(2019/11/14) カシャ氏は前橋の海に面していない立地に興味を持ち、それを映像作品のコンセプトの一部として活用した。(2020/3/18)</p> <p>6. 意図せざる(思わぬ)効果⇒後日記入</p>																					
		<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 30%;">効率性 ①:③ 事業が効率的だったといえるか</td> <td style="width: 10%;">1.非常に良い</td> <td style="width: 10%;">2.良い</td> <td style="width: 10%; text-align: center;">3.普通</td> <td style="width: 10%;">4.劣る</td> </tr> <tr> <td>合目的性 ②:④ 事業の目的を達成したといえるか</td> <td>1.非常に良い</td> <td>2.良い</td> <td style="text-align: center;">3.普通</td> <td>4.劣る</td> </tr> <tr> <td>事業の将来性 ②:⑤ 館の事業に対し将来性があるか</td> <td>1.非常に良い</td> <td style="text-align: center;">2.良い</td> <td>3.普通</td> <td>4.劣る</td> </tr> <tr> <td>社会的将来性 ③:⑤ 社会への影響に将来性があるか</td> <td>1.非常に良い</td> <td style="text-align: center;">2.良い</td> <td>3.普通</td> <td>4.劣る</td> </tr> </table>				効率性 ①:③ 事業が効率的だったといえるか	1.非常に良い	2.良い	3.普通	4.劣る	合目的性 ②:④ 事業の目的を達成したといえるか	1.非常に良い	2.良い	3.普通	4.劣る	事業の将来性 ②:⑤ 館の事業に対し将来性があるか	1.非常に良い	2.良い	3.普通	4.劣る	社会的将来性 ③:⑤ 社会への影響に将来性があるか	1.非常に良い	2.良い
効率性 ①:③ 事業が効率的だったといえるか	1.非常に良い	2.良い	3.普通	4.劣る																			
合目的性 ②:④ 事業の目的を達成したといえるか	1.非常に良い	2.良い	3.普通	4.劣る																			
事業の将来性 ②:⑤ 館の事業に対し将来性があるか	1.非常に良い	2.良い	3.普通	4.劣る																			
社会的将来性 ③:⑤ 社会への影響に将来性があるか	1.非常に良い	2.良い	3.普通	4.劣る																			
自己評価(担当者)	課題・改善点	外部コーディネーターの連携も進み、業務の軽減が生まれているが、引き続きアーティスト・コーディネーター・運営の3者での協議の場や進捗の報告などコミュニケーションの場をより多く作る必要がある。 ゆかりの事業に合わせ、新たなプログラム(アトリエ利用支援)も生まれているので、さらなる効率化を目指したい。																					
	引継ぎ事項(特記事項)																						
コメント・意見	館長 副館長	今年度から始めた交換事業によって、日本人作家の活動を広げる結果を生み出したのはよかった。コーディネート体制も概ねうまくいった。作家選考のためのやり取りなど負担も増えているが、相手機関との関係性を将来有効に活かしてほしい。																					
	運営 評議会																						

令和元年度 アーツ前橋事業評価調書(1)

基本事項	事業名		滞在制作(群馬県ゆかり)(1)三枝愛(2)飯沢康輔						
	事業1	アーティスト	三枝 愛	期間	2/17-3/31 滞在	日数	44		
	事業2	アーティスト	飯沢 康輔	期間	2/15-3/31 滞在	日数	46		
	事業3	アーティスト		期間		日数			
	担当者		学芸:五十嵐純、池上朋 事務:堺大輔、狩野良輔						
	目的・目標 (総括表)		・作家の創作活動支援。 ・市内・県内での活躍の場を広げる。 ・東京などの人口集積地や、自分に地縁のある場所だけにとどまらない発表の場の創出とそのネットワークの形成。						
	キーワード		群馬ゆかりのアーティストの創作活動支援、地域資源の発掘						
	他団体との連携 (共催、協力等)		コーディネート業務を一部外部団体に委託						
① 投入(支出)・③ 結果(収入)	印刷物等		ポストカード (三枝)	1,000 部					
	財務指標		収入(A) 別表から転載	支出(B) 別表から転載	収支比率 (A)/(B)	一人当たり コスト	収入内訳		
			観覧料	文化庁	自治総他				
			予算	-	879,060 円	-	-	-	-
			決算見込	-	551,060 円	-	-	-	-
			差額	-	-328,000 円	-	-	-	-
	予算/決算		62.7%						
	② 内容・活動		[②内容] 事業の概要		事業の概要 (転記)	群馬県にゆかりのある作家に対し、地元での制作環境を支援するため、滞在制作を行う。また、スタジオのみを提供するプログラムを行う。			
[②活動] 主な取組(手段)の結果			・広報戦略 ・新たな試み (転記)	・年齢の枠をなくし、多様な年齢・ジャンルの受け入れを行う。 ・滞在はないが、地域のアーティストに対し、スタジオを提供することで制作環境のサポートを始める。					
メディア等広報実績 新たな試み 関連イベント 助成 など			広報実績 [新規掲載や 効果が大き かった媒体な ど、特別な案	特になし					
●指標 来館者反応 手ごたえ アンケート			新たな試 みの実績	スタジオ・サポート・プログラム(スタジオ利用を通してアーティストの制作を支援するプログラム)を実施し、中之条在住の作家である飯沢氏を招聘した。コロナウイルスの影響からオープンスタジオを予約制にし、トークは映像として記録し後日配信することとした。					
③ 結果	数値目標		指標1	目標	イベント回数:1回	実績	1回(3月16日時点)		
			指標2	目標	参加者数:27名	実績			
			指標1	目標		実績			
			指標2	目標		実績			
			コミット人数(事業・イベント等参加者数・実績)				---		
	進捗管理 [スケジュール観]		㊤概ね円滑に進んだ B.遅延気味であった(内容:						

令和元年度 アーツ前橋事業評価調書(2)

	事業名	滞在制作(群馬県ゆかり)(1)三枝愛(2)飯沢康輔			
④ 成果	〔④成果〕 期待に対する結果 ・観覧者層のターゲット ・ねらい	観覧者層 のターゲット (転記)	近隣住民、県内		
		成果	三枝氏は前橋の椎茸農家をリサーチするにあたり、原木業者や、前橋市農政課の協力のもと3件の農家と交流を深めた。		
		ねらい1 (転記)	①館外活動により、幅広い層への活動紹介		
		成果	三枝氏が滞在制作前に京都で行っていた展示を堅町スタジオで再構成し、地域の人々に滞在初期の段階で三枝氏の作品について知ってもらう機会をつくった。		
		ねらい2 (転記)	②活動拠点の創出		
		成果	後日記入		
		ねらい3 (転記)			
成果					
⑤ 波及効果	個別評価 ※記入日を()内に入れてください ※概ね1年経過毎に再確認して修正	<p><1～6は、記入項目の例・無い場合は「後日記入」。独自の評価項目の設定可。記入目を記載></p> <p>1. 参加作家のその後の活動を評価⇒後日記入</p> <p>2. アーツの事業に対して、誰がどのような価値を見出したのかを評価 ⇒後日記入</p> <p>3. 事業関係者(作家、運営、イベント参加者、地域住民)たちとの間で生まれた交流やその後の関係性の構築を評価⇒後日記入</p> <p>4. 事業の実施に伴う波及効果⇒後日記入</p> <p>5. 地域資源の活用という点での効果⇒三枝氏が前橋の椎茸農家を訪問しリサーチした結果、椎茸農家の現状やこれまでの状況の変化を深く掘り下げることができ、今後の制作のアイデアに繋がった。(2020/3/17)</p> <p>6. 意図せざる(思わぬ)効果⇒滞在中にコロナウイルスの影響でアーツ前橋が臨時休館したことを受け、「前橋の美術」の参加作家の意見交換会に出席し交流を深め、三枝氏は「未来の芽里親プロジェクト」の協力のもと参加作家とともに作品を移動する過程を映像に収めた。滞在制作とスタジオ・サポート・プログラムを同時期に実施したことから、作家同士の交流が生まれ、制作について意見交換する機会ができた。(2020/3/17)</p>			
		自己評価(担当者)	効率性 ①:③ 事業が効率的だったといえるか	1.非常に良い	2.良い
自己評価(担当者)	合目的性 ②:④ 事業の目的を達成したといえるか	1.非常に良い	2.良い	3.普通	4.劣る
自己評価(担当者)	事業の将来性 ②:⑤ 館の事業に対し将来性があるか	1.非常に良い	2.良い	3.普通	4.劣る
自己評価(担当者)	社会的将来性 ③:⑤ 社会への影響に将来性があるか	1.非常に良い	2.良い	3.普通	4.劣る
課題・改善点	滞在制作とスタジオ・サポート・プログラムを同時期で行ったことから業務量が増え、作家とのコミュニケーションがうまく取れないときがあった。今後は実施時期などを検討していきたい。				
引継ぎ事項(特記事項)					
コメント・意見	館長 副館長	他のAIR機関と異なり地域のアーティストや美術館と関わる活動が見えていたことがよかった。スタジオプログラムを新しく導入しているので、今年の振り返りをもとに、海外作家と同様にスケジュール調整や支援体制をどのように変えていくべきか再検討しておけるといい。			
	運営 評議会				

令和元年度 アーツ前橋事業評価調書(1)

基本事項	事業名	文化支援事業 前橋まちなかアーツ助成											
	会期	2018年10月12日～11月4日						開館日数	-				
	会場(ギャラリー)	市内中心市街地16箇所						実施方式	02自主企画・名義共催方式				
	観覧料	企画により異なる						助成団体数	11団体				
	担当者	学芸:五十嵐 純 事務:塚 大輔											
	目的・目標	<ul style="list-style-type: none"> ・市民が様々な芸術文化に触れる機会の創出。 ・まちなかで活動する芸術文化団体等への支援及び相互の交流機会の創出。 ・まちなかの回遊性の向上によるにぎわいの創出。 											
	キーワード	地域で文化活動を行う市民への支援、回遊性向上											
	他団体との連携 (共催・協力等)	主催:アートによる文化交流推進実行委員会(事務局、共催:アーツ前橋)											
参加作家(団体)	前橋むーびー一部	芽部	トнде空静	POP HEADS!									
	ギャラリーアーツスー	テラサワフェス実行員会	山賀ざくろ企画	ヤーギンズ実行委員会、など									
関連イベント	「まえばし草映画まつり」「まえばし猫町フェス2019」「前橋sightプロジェクト2019『とめどなく』」「ダンス公演『中空リバーズ』」「アーツスーのおいしいもの展」など16事業												
① 投入(支出)・③ 結果(収入)	印刷物等	チラシ・フライヤー 助成団体で作成											
	収入/支出	収入(A)	支出(B)	収支比率(A)/(B)	入館者一人当たりコスト	収入内訳							
						観覧料	自治総他	中心協					
		予算	-	2,000,000 円	-	-	-	-	-				
		決算見込	-	1,889,990 円	-	-	-	-	-				
		差額	-	-110,010 円	-	-	-	-	-				
予算/決算	-	94.5%	-	-	-	-	-						
② 内容・活動	〔②内容〕 事業の概要 〔②活動〕 主な取組(手段)の結果 ・メディア等広報実績 ・新たな試み 図録 関連イベント 助成 など ●指標 来館者反応 エンゲージメント	事業の概要(転記)	過去5年実施してきた、まちなかで活動している芸術文化団体への助成。めぶくフェス(アート部門)との役割分担を踏まえ、より芸術活動に主軸をおいて継続的(3年以上の実績)に活動する団体・個人を支援する。										
		広報戦略 新たな試み(転記)	<ul style="list-style-type: none"> ・参加者ミーティングの実施によるプレイヤー相互の理解、相乗効果による発信 ・助成金申請額を最低1万円に設定し、柔軟に対応 ・自己負担金を設定し、長期的な自立支援を目指す。 										
		広報実績 [新規掲載や効果が大きかった媒体など、特別な案件]	統一の印刷物を作らず、各団体が印刷物を制作										
		新たな試みの実績	自己負担額を設定し、制度の継続性を高めた。										
③ 結果	入場者数(参考数値) 上段:人数(人) 下段:割合(%) ※色付きは有料観覧者	一般	学生	65才以上	団体	高校生以下	招待券	割引等	視察	イベント	他	合計(人)	日平均(人)
		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	指標	目標値		達成値		達成率		特記事項					
	支援対象団体数	10 団体		11 団体		110.0 %							
	イベント回数	20 回		26 回		130.0 %							
参加者数	1,000 人		3,629 人		362.9 %								

令和元年度 アーツ前橋事業評価調書(2)

③ 結果	事業名	文化支援事業 前橋まちなかアーツ助成			
	進捗管理 [スケジュール観]	A.概ね円滑に進んだ B.遅延気味であった (自己負担金を設定することで、提出資料のやり取りに時間がかかった)			
④ 成果	[④成果] 期待に対する結果 ・観覧者層のターゲット ・ねらい	観覧者層のターゲット	近隣在住者、美術以外の芸術表現に興味を持つ市民		
		成果	音楽、演劇、映画、詩など多様なジャンルの表現者の事業を採択し、市内での活動の場を創出できたことで、市民に開かれた芸術鑑賞の場を提示できたと考ええる。		
		ねらい1 (転記)	①芸術文化に関わる人材の増加		
		成果	新規採択団体があったことから、地域の芸術文化にかかわる人材の増加の一助となっているものと考ええる。		
		ねらい2 (転記)	②地域で活動を続ける個人・団体への長期的な活動支援		
		成果	助成事業として5年目となり、採択団体の多くは、これまで地域での活動を継続している団体であり、継続して応募する団体も多く、一定の認知と活動支援につながっていると考える。		
⑤ 波及効果	個別評価 ※概ね1年経過後に再確認して修正 (記入日を()内に記載)	<1~6は、記入項目の例・無い場合は「後日記入」。独自の評価項目の設定可。記入日を記載>			
		1. 参加作家のその後の活動を評価⇒後日記入			
		2. アーツの事業に対して、誰がどのような価値を見出したのかを評価 ⇒後日記入			
		3. 事業関係者(作家、運営、イベント参加者、地域住民)たちとの間で生まれた交流やその後の関係性の構築を評価⇒ 採択決定後、および事業終了後に採択団体の事業説明、報告を行う交流会を実施した。新規採択団体の「ハレルワ」は駅家の木馬祭りと連携。(2020/3/18)			
		4. 事業の実施に伴う波及効果⇒後日記入			
		5. 地域資源の活用という点での効果⇒前橋シネマハウス、第一コミュニティセンターなど多くの施設が使用され、商店街内での展示も多く行われた。			
6. 意図せざる(思わぬ)効果⇒後日記入					
自己評価 (担当者)	効率性 ①:③ 事業が効率的だったといえるか	1.非常に良い	2.良い	③普通	4.劣る
	合目的性 ②:④ 事業の目的を達成したといえるか	1.非常に良い	2.良い	③普通	4.劣る
	事業の将来性 ②:⑤ 館の事業に対し将来性があるか	1.非常に良い	2.良い	③普通	4.劣る
	社会的将来性 ③:⑤ 社会への影響に将来性があるか	1.非常に良い	2.良い	③普通	4.劣る
	課題・改善点	すでに助成事業として5年継続して開催しているため、安定した応募団体数と成果が現れていると考えられるが、より自発的な活動を促すための助成の方法を検討する必要がある。また、これまで継続した課題であるイベント実施団体の交流が十分とは言えないため、助成実施以外のプログラムで相互の関心を高める方法を検討したい。			
引継ぎ事項 (特記事項)					
コメント・意見	館長 副館長	支援を減らしていく第一段階となったが、これまでと同じような効果を保つことができた。質的な優劣があるなかで、限られた資源をどのように使っていくべきか、また開館当初比べて中心市街地の活性に取り組む活動が増えているため、役割を見直す時期に来ている。			
	運営 評議会				

令和元年度 アーツ前橋事業評価調書(1)

基本事項	事業名		文化支援プログラム(1)身体の人たち(2)駅家ノ木馬祭り					
	事業1	身体の人たち	期間	9月21日~3月末	日数	7日		
	事業2	駅家ノ木馬祭り	期間	9月7日、10月26日	日数	2日		
	事業3		期間		日数			
	担当者		学芸:五十嵐純、吉田絵美、池上朋 事務:塚大輔、狩野良輔					
	目的・目標 (総括表)		・身体表現等の視覚芸術以外の表現活動の継続した支援 ・市内を中心に文化活動を続ける団体・個人とのネットワーク形成。					
	キーワード		【身体】新t内表現を通じた地域の交流・学びの場形成活動支援 【木馬】地域の歴史的文化的資源を活用した活動支援					
① 投入(支出)・③ 結果(収入)	他団体との連携 (共催、協力等)		【身体】 【木馬】セクシュアルマイノリティ支援団体ハレルワ、「山本高之とアーツ前橋のBEYOND20XX」展との					
	参加作家		【身体】伊沢正名、トチアキタイヨウ、羽鳥喜郎、荒井正人、身体の人たちメンバー 【木馬】白川昌生、ハレルワ					
	関連イベント・人数		【身体】NewTone 全8回(8回目は中止)、自主イベント2回 【木馬】春の、弁天様コンテスト7/7、前月夜祭9/7(80名)、本祭10/26(300名)					
	印刷物等		身体の芸術 (チラシ)	身体の芸術(チ ラン)	身体の芸術 (チラシ)	駅家の木馬()	駅家の木馬()	駅家の木馬()
			2,000部	2,000部	4,000部 2,000部	2,000部		
	財務指標		収入(A) 別表から転載	支出(B) 別表から転載	収支比率 (A)/(B)	一人当たり コスト	収入内訳	
							観覧料	文化庁
予算		-		-	-	-	-	-
決算見込		-		-	-	-	-	-
差額				-	-	-	-	-
予算/決算				-	-	-	-	-
② 内容・活動	【②内容】 事業の概要		事業の概要 (転記)		まちなかで活動するアーティストやクリエイターなど、芸術文化を担う民間の主体と協働してイベント等を企画する。 (1)身体の芸術 (2)駅家の木馬実行委員会			
	【②活動】 主な取組(手段)の 結果		・広報戦略 ・新たな試み (転記)		・助成事業とすることでより自立的な事業の開催を目指す。 ・他事業との広報連携を行う。 ・自己負担金を設定し、長期的な自立支援を目指す。			
	・メディア等広報実績 ・新たな試み ・関連イベント ・助成 など		広報実績 [新規掲載や 効果が大き かった媒体な ど、結果的な]		・各団体が事業ごとにそれぞれ広報物を制作、配布 ・「身体芸術 可能性探る 多ジャンルの表現者「New-Tone」前橋市内で展開」 上毛新聞 2月4日			
●指標 来館者反応 手ごたえ		新たな試 みの実績		・年間を通した事業計画を作成し、実行委員それぞれの分野を生かした独自の プログラムを行った(身体の人たち)				
③ 結果	数値目標		指標1 【身体】	目標	総参加者数 50名	実績	87名	
			指標1 【木馬】	目標	総参加者数 50名	実績	380名	
			コミット人数(事業・イベント等参加者数・実績)				—	
進捗管理 【スケジュール観】		①概ね円滑に進んだ B.遅延気味であった(内容:)						

令和元年度 アーツ前橋事業評価調書(2)

	事業名	文化支援プログラム(1)身体の人たち(2)駅家ノ木馬祭り			
④ 成果	〔④成果〕 期待に対する結果 観覧者層のターゲット ・ねらい	既見層 のターゲット (転記)	芸術になじみのない市民		
		成果	(1)身体:「普及」「探求」「拡張」をテーマとし、事業計画を行ったことで、だれでもが参加できるプログラムを実施した。ジャンルに固定されない参加者を集めることができた。 (2)木馬:商店街などを会場とすることで、広く市民に公開し、だれでもが自由に参加できる形での事業を実施した。		
		ねらい1 (転記)	①地域の表現者コミュニティとの連携強化		
		成果	(1)身体:実行委員の追加などが行われ、新たなネットワーク形成につながった。 (2)木馬:セクシュアルマイノリティ支援団体のハレルワと協働し、本祭を開催した。		
		ねらい2 (転記)	②地域における活動の場・機会の創出		
		成果	(1)身体:地域のアトスペースや喫茶店などを会場として開催した。 (2)木馬:毎年継続的に実施できていることで、周辺地域での認知が広がっている。		
		ねらい3 (転記)			
		成果			
⑤ 波及効果	個別評価 ※記入日を()内に入れてください ※概ね1年経過毎に再確認して修正	<p><1～6は、記入項目の例・無い場合は「後日記入」。独自の評価項目の設定可。記入日を記載></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 参加作家のその後の活動を評価⇒後日記入 2. アーツの事業に対して、誰がどのような価値を見出したのかを評価 ⇒後日記入 3. 事業関係者(作家、運営、イベント参加者、地域住民)たちとの間で生まれた交流やその後の関係性の構築を評価⇒(木馬)街中に拠点をもったLGBTQ支援団体のハレルワのメンバーが木馬祭りにむけ、プラカードを作るワークショップを開催し、練り歩きに参加した。(2020/3/18) 4. 事業の実施に伴う波及効果⇒後日記入 5. 地域資源の活用という点での効果⇒後日記入 6. 意図せざる(思わぬ)効果⇒(身体)活動拠点とすることができる街中の使われていない物件の紹介などがあった。(2020/3/18) 			
自己評価 (担当者)	効率性 ①:③ 事業が効率的だったといえるか	1.非常に良い	2.良い	3.普通	4.劣る
	合目的性 ②:④ 事業の目的を達成したといえるか	1.非常に良い	2.良い	3.普通	4.劣る
	事業の将来性 ②:⑤ 館の事業に対し将来性があるか	1.非常に良い	2.良い	3.普通	4.劣る
	社会的将来性 ③:⑤ 社会への影響に将来性があるか	1.非常に良い	2.良い	3.普通	4.劣る
	課題・改善点	身体・木馬共に、事業の広報物を作成し、配布を行っているが、効果が十分であるとは言えない。印刷物にこだわらない、それぞれの事業に適したメディアの検討が必要であると考えます。また両事業ともに、長期計画を共有し、助成金以外の支援の方法についても検討する必要があると考えます。			
引継ぎ事項 (特記事項)					
コメント・意見	館長 副館長	どちらも企画者たちの主体性が発揮されているため、運営は順調に進められた。いつばうで、新しい発想で次のステップを踏み出すことを一緒に話し合っていけるとよいのではないだろうか。			
	運営 評議会				

平成31年度 アーツ前橋事業評価調書(1)

基本事項	事業名	アーティスト・イン・スクール(学校連携)						
	(1)アーティストインスクール	時期・日数	8月～3月	会場		参加費	無・()円	
	(2)教員向け広報物作成	時期・日数	3月	会場		参加費	無・()円	
	(3)無料招待ウィーク	時期・日数	4月、7月	会場		参加費	無・()円	
	担当者	今井(桃川)、吉田(勝山)、若山(六中)、小屋、高山						
	目的・目標 (総括表)	学校生活の中で質の高い芸術に触れ、アーティストとの交流を行いながら児童・生徒の表現力やコミュニケーション能力を育成する。						
	キーワード							
	他団体との連携 (共催・協力等)	アーティストインスクール: 桃川小学校、勝山小学校、第六中学校						
	参加作家	中島佑太	住中浩史	尾花藍子				
	関連イベント・人数	AIS: 桃川小(全42コマ) AIS: 勝山小(全4コマ) AIS: 六中(全48コマ) 先生のための無料招待ウィーク						
① 投入(支出)・③ 結果(収入)	印刷物等	H31スクールプログラム	AIS報告書					
		内部印刷	3,000部	-	-	-	-	
	財務指標	収入(A) 別表から転載	支出(B) 別表から転載	収支比率 (A)/(B)	一人当たり コスト	収入内訳		
						参加費	助成金	他
		予算	1,352,050 円	1,352,050 円	100.0%	#REF!		
		決算見込	1,352,050 円	1,381,150 円	97.9%	#DIV/0!		
差額		29,100 円	-2.1%	-				
予算/決算	100.0%	102.2%	97.9%					
② 内容・活動	〔②内容〕 事業の概要	事業の概要 (転記)	(1)アーティスト・イン・スクール: アーティストの学校への派遣 (2)教員向け広報物作成、無料招待ウィーク: 児童生徒とのつなぎ手である教員向けに広報を行い、アーツ前橋の事業への理解を促す					
	〔②活動〕 主な取組(手段)の結果	・広報戦略 ・新たな試み (転記)	実施予定校を前年度に調整し、決定する					
	メディア等広報実績 ・新たな試み ・関連イベント ・助成 など	広報実績 [新規掲載や 効果が大き かった媒体な ど、特別な案 件]	・関東甲信越静地区造形教育連合での授業発表(第六中学校)					
	●指標 来館者反応 手ごたえ アンケート	新たな試 みの実績	・第六中学のプログラムでは、映像をテーマにアーティスト/教員/学芸員が連携して授業を組み立てた ・桃川小学校ではこれまで図工授業の補助教員としてのプログラムを行っていたが、本年度はワークショップ形式のプログラムを組んだ ・勝山小学校では、身体的な表現を取り入れた授業プログラムを行った					
③ 結果	数値目標	指標1	目標	AIS実施校数: 4校		実績	3校	
		指標2	目標	AIS参加者数		実績	桃川小127名、勝山小55名、六中●名	
		指標3	目標	先生の招待(参加者数)		実績	38名	
③ 結果	進捗管理 [スケジュール観]	<input checked="" type="radio"/> A.概ね円滑に進んだ <input type="radio"/> B.遅延気味であった(内容: 開館後まで積み残しとなった事項()						

平成31年度 アーツ前橋事業評価調書(2)

	事業名	アーティスト・イン・スクール(学校連携)				
④ 成果	参加者層のターゲット (転記)	(1)小学校～高校の児童・生徒 (2)教員				
	成果	小学校と中学校ではプログラム受け入れてもらうことができた。特に、第六中学校と桃川小学校は複数年度にまたがる継続プログラムとして行うことにより、現場の教員の方たちと一緒にプログラムを組み立てつことができた。				
	ねらい1 (転記)	児童・生徒が現代美術の表現の多様さを知る				
	成果	尾花藍子のプログラムでは、身体表現という通常の図工授業では扱わない内容でありながらも、言葉を使わずに身体を通じてコミュニケーションを試みることで、表現することの根源的な意味を感じてもらうことができた。また、中島佑太のプログラムでも、目の前にいる友達の話をつまみに聞くことを通じて表現することの大切さを学んでもらうことができたようだ。				
	ねらい2 (転記)	アーティストと活動を行うことで、表現力が身につく				
	成果	通常の図工で求められる表現するための素材や技術の問題とは異なり、表現することのそもそもの意味や多様な方法論を生徒たちに感じてもらうことができた。				
	ねらい3 (転記)					
成果						
⑤ 波及効果	個別評価	<p><1～6は、記入項目の例・無い場合は削除。独自の評価項目の設定可。記入日を記載></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 参加作家のその後の活動を評価⇒後日記入 2. アーツの事業に対して、誰がどのような価値を見出したのかを評価⇒後日記入 3. 事業関係者(作家、運営、イベント参加者、地域住民)たちとの間で生まれた交流やその後の関係性の構築を評価⇒中島佑太のプログラムでは桃川小学校校区の南橋団地とのプログラムと連動させることでPTAの役員や保護者との信頼関係も築くことができた。(2020/3/18) 4. 事業の実施に伴う波及効果⇒関東甲信越静地区造形教育連合で授業発表をする機会をもつことができた。(2020/3/18) 5. 地域資源の活用という点での効果⇒後日記入 6. 意図せざる(思わぬ)効果⇒AISのリーフレットをご覧になった高校の先生から来年度のプログラムへの実施依頼があった。(2020/3/18) 				
	※記入日を○内に入れてください ※概ね1年経過毎に再確認して修正					
自己評価(担当者)	効率性 ①:③	事業が効率的だったといえるか	1.非常に良い	2.良い	<input checked="" type="radio"/> 3.普通	4.劣る
	合目的性 ②:④	事業の目的を達成したといえるか	1.非常に良い	2.良い	<input checked="" type="radio"/> 3.普通	4.劣る
	事業の将来性 ②:⑤	館の事業に対し将来性があるか	1.非常に良い	<input checked="" type="radio"/> 2.良い	3.普通	4.劣る
	社会的将来性 ③:⑤	社会への影響に将来性があるか	1.非常に良い	<input checked="" type="radio"/> 2.良い	3.普通	4.劣る
	課題・改善点	担当の学芸員が昨年度から変更となったため、学校とこれまで築いてきた関係性を引き継ぐの難しかった。3校のうち2校は三年度からの継続事業であったため、新規校は1校のみとなった。また、本活動周知のための広報活動を行うことで、今後プログラムを実施することのできる学校の可能性を増やす必要がある。				
引継ぎ事項(特記事項)	これまで行ってきたAISプログラムが学校の学習プログラムの中でどのように有効なのかを言語化する必要がある。					
コメント・意見	館長 副館長	関心を持ってくれる学校や教員は限定的だが着実に浸透している。数を多く増やすことはできないため、参加アーティストやコーディネーターの役割を見直しながら、少しずつ効果的なやりかたを模索してほしい。				
	運営 評議会					

最終更新日:R2.3.18

平成31年度 アーツ前橋事業評価調書(1)

基本事項	事業名	アーツナビゲーター研修						
	(1)研修	時期・日数	7/6、8/23-24、10/16、11/15-16、2/14-15 8日間	講師	齊藤佳代	参加者数	13名	
	(2)おしゃべりアートデイズ	時期・日数	6/3-6/9、9/2-9/8、12/2-12/8 18日間	講師	ナビゲーター	参加者数	115名	
		時期・日数		講師数		参加者数		
	担当者	学芸:辻瑞生,吉田絵美 事務:小屋綾子、新保正夫						
	目的・目標 (総括表)	美術鑑賞は敷居が高いと思っている人たちや作品や作家についての知識を得ることが作品鑑賞だと考える人に、自分の目で作品鑑賞する楽しさを知ってもらう。						
	キーワード	主体的な美術鑑賞、異なる視点の共有						
他団体との連携 (共催、協力等)								
該当展覧会	やなぎみわ展	山本高之とアーツ前橋の ビヨンド20XX	表現の生態系					
①投入(支出)・③結果(収入)	印刷物等	チラシ(A4)						
		3,000部						
	財務指標	収入(A) 別表から転載	支出(B) 別表から転載	収支比率 (A)÷(B)	一人当たり コスト	収入内訳		
						参加費	助成金	他
		予算	-	525,000円	-	-	-	-
	決算見込	-	342,380円	-	-	-	-	
	差額	-	-182,620円	-	-	-	-	
	予算/決算	-	65.2%	-	-	-	-	
②内容・活動	〔②内容〕 事業の概要	事業の概要 (転記)	来館者と一緒に対話しながら作品鑑賞をするファシリテーターの育成。作品研究の方法や、ガイドプランの作成や、実践でのコーチングを行いながら、情報提供型のファシリテーションを学ぶ。					
	〔②活動〕 主な取組(手段)の結果 ・メディア等広報実績 ・新たな試み ・関連イベント ・助成 など ●指標 来館者反応 手こたえ アンケート	・広報戦略 ・新たな試み (転記)	展覧会会期中に「おしゃべりアートデイズ」を実施し、来場者とともに作品鑑賞ツアーを行う。 公民館などに参加者を呼びかける。					
		広報実績 [新規掲載や効果が大きかった媒体など、特別な案件]	・「おしゃべりアートデイズ」開催ごとに「広報まえばし」に参加者募集を掲載したほか、案内チラシを館内や図書館、県内美術館などへ配布した。					
		新たな試みの実績	・本年度は、おしゃべりアートデイズの年間スケジュールを、募集チラシと合わせて作成したので、参加者に事前に告知することができた。 ・一つの作品についての対話型鑑賞だけでなく、展覧会のコンセプトについても対話するような作品鑑賞を目指した。					
③結果	数値目標	指標1	目標	自主研修回数:15回	実績	15回		
		指標2	目標	おしゃべりAD参加者数:100人	実績	115人		
		指標3	目標	受講継続者数:10人	実績	10人		
③結果	進捗管理 [スケジュール観]	A.概ね円滑に進んだ B.遅延気味であった(内容:)						

平成31年度 アーツ前橋事業評価調書(2)

	事業名	アーツナビゲーター研修			
④ 成果	〔④成果〕 期待に対する結果 ・観覧者層のターゲット ・ねらい	観覧者層のターゲット (転記)	ターゲット: 事業主旨を理解し、アートやコミュニケーションが好きな人		
		成果	新規4名の申し込みがあったが、継続者は1名だった。昨年度からの継続者と合わせて10名が活動しているが、それぞれが自分の得意分野で対話型鑑賞の手法を使って活動をしている。		
		ねらい1 (転記)	アーツナビゲーターのスキルアップと、研修後も自主的な活動を行い、展覧会ごとに「おしゃべりアートデイズ」を実施できるような組織作り		
		成果	本年度から新たに使用しているウェブサイトが使いにくく、自主研修のスケジュール調整や意見交換が上手くいかなかった。「おしゃべりアートデイズ」終了後のふりかえりなど、自主的に行っている。		
		ねらい2 (転記)			
		成果			
		ねらい3 (転記)			
成果					
⑤ 波及効果	個別評価 ※記入目を()内に入れてください ※概ね1年経過毎に再確認して修正	<1～6は、記入項目の例・無い場合は削除、独自の評価項目の設定可。記入目を記載> 1. 参加作家のその後の活動を評価⇒後日記入 2. アーツの事業に対して、誰がどのような価値を見出したのかを評価⇒後日記入 3. 事業関係者(作家、運営、イベント参加者、地域住民)たちとの間で生まれた交流やその後の関係性の構築を評価⇒後日記入 4. 事業の実施に伴う波及効果⇒アーツナビゲーターの中から、他の美術館(高崎市美術館、館林美術館、中之条ビエンナーレ)や個人の活動の中で対話型鑑賞の活動する人が出てきた。(2020/3/13) 5. 地域資源の活用という点での効果⇒後日記入 6. 意図せざる(思わぬ)効果⇒後日記入			
自己評価(担当者)	効率性 ①:③ 事業が効率的だったといえるか	1.非常に良い	<input checked="" type="radio"/> 2.良い	3.普通	4.劣る
	合目的性 ②:④ 事業の目的を達成したといえるか	1.非常に良い	2.良い	<input type="radio"/> 3.普通	4.劣る
	事業の将来性 ②:⑤ 館の事業に対し将来性があるか	1.非常に良い	<input checked="" type="radio"/> 2.良い	3.普通	4.劣る
	社会的将来性 ③:⑥ 社会への影響に将来性があるか	1.非常に良い	<input checked="" type="radio"/> 2.良い	3.普通	4.劣る
	課題・改善点	【アーツナビゲーターについて】 ・現在10名が継続している。新規者と継続者を合同で研修しているため、継続者には同じ研修を何度も繰り返すことになり、新規者へは細かいフォローができていない場面のあった。来年度は新規者を募集せず、2、3年目の継続者を中心とした研修プログラムを組むことを考えている。 【おしゃべりアートデイズ】 ・年間スケジュールの印刷物を作成し、配布したが、参加者の増加には効果が少なかった。 ・対話による作品鑑賞は将来性のあるプログラムであるが、ナビゲーターと鑑賞者が集まらず、積極的な活動ができていないのが課題である。新年度からは定期開催にして、イベントの周知を目指す。			
引継ぎ事項 (特記事項)	・新たな試み 新年度からは、毎月第3金曜、土曜日の定期開催を行う。これまでは展覧会会期末に開催していたため、作品研究に時間が取れたが、今後は準備期間が短くなるため、フォローをしっかりと行いたい。 (転記)				
コメント・意見	館長 副館長	参加者は継続している人が増え、だいぶ習熟していった。いっぽうで成果を見せることが腕を磨くことになるので、来年度から定期開催に移行することに期待している。			
	運営 評議会				

最終更新日:H31.3.16

平成31年度 アーツ前橋事業評価調書(1)

基本事項	事業名	表現の森継続事業						
	事業1	時期・日数	石坂玄士・山賀ざくろ×特別養護老人ホームえいめい／じゃんけんぼん 全4回(5/8, 7/22, 8/19, 11/18)	会場	特別養護老人ホームえいめい 小規模多機能の家じゃんけんぼん	人数	225人	
	事業2	時期・日数	滝沢達史×アリスの広場 全7回(4/20-21, 5/22-23, 6/15-16, 7/24-25, 10/10-13, 11/25-27, 12/23)	会場	アーツ前橋、まちの保健室	人数	186人	
	事業3	時期・日数	中島佑太×南橋団地 全3回(7/7, 12/15, 3/1)	会場	アーツ前橋、足尾町など	人数	110人	
	事業4	時期・日数	廣瀬智央・後藤朋美×のぞみの家 全4回(5/18, 8/17, 10/19, 2/29)	会場	のぞみの家、赤城山など	人数	88人	
	事業5	時期・日数	山田創平・あかたちかこ×「ハレルワ」リサーチ全6回(4/20-4/23, 4/28, 6/30, 9/2-9/3, 9/16-9/18, 10/8-10/13)	会場	アーツ前橋、まちの保健室、伊香保町など	人数	49人	
	担当者	学芸:今井 事務:小屋、高山						
	目的・目標 (総括表)	<ul style="list-style-type: none"> ・アート／美術館が社会課題に対してどのような役割を果たせるのかを考える機会を創出する。 ・アーティストを軸にしたアートプロジェクトを運営することのできる人材を育成する。 ・地域の福祉／教育現場との連携関係を築く。 						
	キーワード	美術館のアウトリーチ、人材育成、福祉や医療や教育の現場、施設や地域との連携						
	他団体との連携 (共催、協力等)	NPO法人ぐんま若者応援ネット アリスの広場、社会福祉法人清水の会特別養護老人ホームえいめい、社会福祉法人上毛愛隣社のぞみの家、桃川小学校、南橋町育成会、小規模多機能の家じゃんけんぼん、ハレルワ、群馬医療福祉大学、文化庁、上毛電鉄						
参加作家	石坂玄士、山賀ざくろ、滝沢達史、中島佑太、廣瀬智央、後藤朋美							
関連イベント・人数	<ul style="list-style-type: none"> ・アーティスト・イン・スクール(中島佑太、桃川小学校):アーツ前橋主催事業 							
① 投入(支出)・③ 結果(収入)	印刷物等							
	財務指標	収入(A) 別表から転載	支出(B) 別表から転載	収支比率 (A)／(B)	一人当たり コスト	収入内訳		
		参加費	助成金	他				
		予算	3,031,230 円	-	4,977 円	-	-	-
		決算見込	2,988,226 円	-	4,907 円	-	-	-
差額	-43,004 円	-	-71 円	-	-	-		
予算／決算	98.6%		-	-	-	-		
② 内容・活動	〔②内容〕 事業の概要	事業の概要 (転記)	(1)アリスの広場×滝沢達史 (2)南橋団地×中島佑太 (3)市内高齢者施設×石坂玄士／山賀ざくろ (4)のぞみの家×廣瀬智央／後藤朋美 が、定期的なワークショップやリサーチプログラムを行う。					
	〔②活動〕 主な取組(手段)の 結果	・広報戦略 ・新たな試み (転記)	H30年度事業の反省や課題を考えながら、関係各所との連携関係を深める。また、プロジェクトを広く周知するための記録媒体の拡充を図る。					
	・メディア等広報実績 ・新たな試み ・関連イベント ・助成 など	広報実績 [新規掲載や 効果が大き かった媒体な ど、特別な案 件]	<ul style="list-style-type: none"> ・11/19 上毛新聞「楽器や身体表現 高齢者と一体感 じゃんけんぼん」 ・2/4 J-wave 「GOOD NEIGHBORS」滝沢達史×アリスの広場×ハレルワ まちの保健室プロジェクト紹介 ・マルパ実践報告フォーラムでの活動紹介 ・フリティッシュ・カウンシル主催「孤立に伴う地域課題と文化芸術」フォーラムでの活動紹介 ・愛媛大学「まちと文化とアートの学校」での活動紹介 					
●指標 来館者反応 手ごたえ アンケート	新たな試 みの実績	<ul style="list-style-type: none"> ・新規連携施設の開拓(小規模多機能の家じゃんけんぼん、ハレルワ) ・滝沢達史×アリスの広場×ハレルワによる街中の新規拠点「まちの保健室」プロジェクトの立ち上げ ・企画展「表現の生態系」展、「山本高之とアーツ前橋のビヨンド20XX」との連携によりプロジェクトを展示の中で見せる試みを行った ・上毛電鉄との連携によりアリスの広場の若者たちと電車広告を利用した展示を実現 ・それぞれの団体による外部資金獲得(サンヨー助成金、クラウドファンディング) 						

平成31年度 アーツ前橋事業評価調書(2)

事業名		表現の森継続事業				
③ 結果	数値目標	指標1	目標	ワークショップ実施回数 36回	実績	ワークショップ実施回数 18回
		指標2	目標	参加者数 400人	実績	609 人
	進捗管理 [スケジュール観]	(A)概ね円滑に進んだ (B)遅延気味であった(内容:)				
④ 成果	〔④成果〕 期待に対する結果 ・観覧者層のターゲット ねらい	観覧者層の ターゲット (転記)	ターゲット:美術館から精神的/物理的にもアクセスが最も難しいと考えられる人			
		成果	新規の連携先なども増え、プロジェクトの対象者のみならず、施設のスタッフやご家族の方たちからもプログラム内容への理解を促すことができた。			
		ねらい1 (転記)	①アート/アーティストを通じて福祉/医療/教育における社会課題を見つめ、美術館へのアクセスに困難を抱える人たちへプログラムの参加を促進する。			
		成果	高齢者施設での実践では、群馬医療福祉大学の先生にプロジェクトメンバーとして参加していただくことで、福祉の側からの活動に対する意見交換をしながらプログラム内容を改善することができた。また、アリスの広場の活動は、LGBT支援団体のハレルフと連携することで街中への新たな拠点づくりへと発展し、若者たちが主体的に活動に参加する機会を促した。			
		ねらい2 (転記)	②アウトリーチプログラムを通じて、美術館へのインリーチへ繋げる。			
	成果	南橋団地のプロジェクトにコアに関わる子どもたちと美術館の企画展の一部の展示を共に考えることができた。4年間の関係性の蓄積の中で、彼ら自身のアイデアをプログラムに生かしながら、設計することができた。				
	ねらい3 (転記)					
⑤ 波及効果	個別評価	<1~6は、記入項目の例・無い場合は削除。独自の評価項目の設定可。記入日を記載> 1. 参加作家のその後の活動を評価⇒ 中島佑太は南橋団地でのプロジェクトがきっかけになり他館での展示依頼があった(2020.03.12) 2. アーツの事業に対して、誰がどのような価値を見出したのかを評価 ⇒ 昨年に引き続き県外各所から表現の森に関する登壇依頼が多く寄せられた(2020.03.12) 昨年度発行された九州ソーシャルラボの冊子での紹介記事の英語版の発行や来年度にメルボルン大学で開催されるAsian Study学会での発表が予定されるなど海外での紹介の機会も予定されている(2020.03.12) 3. 事業関係者(作家、運営、イベント参加者、地域住民)たちとの間で生まれた交流やその後の関係性の構築を評価⇒4年間のプログラムの継続をすることが、アリスの広場との新たな拠点づくりに繋がった(2020.03.12) プロジェクトの横の連携を作るための勉強会を開催(2020.03.12) 4. 事業の実施に伴う波及効果⇒新たな拠点作りによる街中への波及(2020.03.12) 5. 地域資源の活用という点での効果⇒後日記入 6. 意図せざる(思わぬ)効果⇒後日記入				
	※記入日を()内に入れてください ※概ね1年経過毎に再確認して修正					
自己評価(担当者)	効率性 ①:③ 事業が効率的だったといえるか	1.非常に良い	2.良い	<input type="radio"/> 3.普通	4.劣る	
	合目的性 ②:④ 事業の目的を達成したといえるか	1.非常に良い	<input type="radio"/> 2.良い	3.普通	4.劣る	
	事業の将来性 ②:⑤ 館の事業に対し将来性があるか	1.非常に良い	<input type="radio"/> 2.良い	3.普通	4.劣る	
	社会的将来性 ③:⑤ 社会への影響に将来性があるか	1.非常に良い	<input type="radio"/> 2.良い	3.普通	4.劣る	
	課題・改善点	昨年度と同様に、プロジェクト内のコーディネーターの養成が難しい。プロジェクトを継続させていく中で、施設とアーティストや施設と美術館を結ぶコーディネーターの役割が非常に重要になるが、現在まで新たな人材の育成ができていない。				
引継ぎ事項(特記事項)	プロジェクトの中にはルーティーン化しているものもあり、改めてプロジェクトチームのメンバー間で継続事業として行っている目的の共有が必要になる。					
コメント・意見	館長 副館長	参加作家と受入れ団体の関係性がだいぶ安定してきた。それぞれが目的を共有できるようになっているので、改めて内容を検証し、質を高めていくための議論や研究をおこなってほしい。				
	運営 評議会					